探見丸 CV

カラーバージョン

取 扱 説 明 書

このたびは、フルノ/シマノ探見丸CVをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、探見丸同様大切に保存してくださいますようお願い申し上げます。

● 探見丸を安全にお使いいただくために

探見丸の防水規格は JISC 0920 5級 防噴流形（IEC:IPX5）「いかなる方向からの直接噴流によっても有害な影響を受けない」ですが、水中への浸漬に対する保護機能はありませんのでご注意ください。

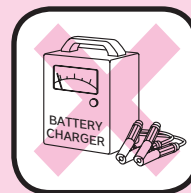
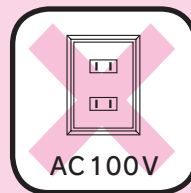
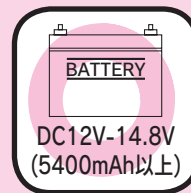
探見丸の電源コネクターに海水が入らないよう、船縁設置中は電源コードを抜いたままにしないでください。

又、船縁に設置後の釣り場移動時/釣行の移動時には、付属のカバーをかぶせてください。

過度の波浪/突起物等から本機を守ります。（下図）

1 お取り扱い上の注意

電源について

電源は直流（DC）12Vです。公称電圧が12Vから14.8V（リチウムイオンバッテリーなど）までのものをご使用下さい。
指定外の電源（たとえば家庭用の交流100V、船装備の直流24Vなど）ではご使用できません。
バッテリーチャージャーなどは絶対に使わないで下さい。

- ●船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流（DC）12Vから14.8Vであることをご確認ください。また、端子がサビていると正常に作動しない場合がありますので、サビを取り除いてご使用ください。
- ●十分に充電したバッテリーをご使用ください。
- ●釣行後、バッテリーは長持ちさせるためすぐに充電してから保管し、リチウムイオンバッテリーは使い切ってから充電せずに保管してください。
  そして再度、釣行前に充電してご使用ください。

●バッテリーは長期間使用されますと、次第に充電できる容量が少なくなります。その場合は、バッテリーのみ新しいものをお求めください。
●バッテリーの電圧が低下している時、電動リールがかろうじて動作しても探見丸は低電圧保護で停止する場合があります。
●電池の種類によっては多少使用可能時間が前後します。

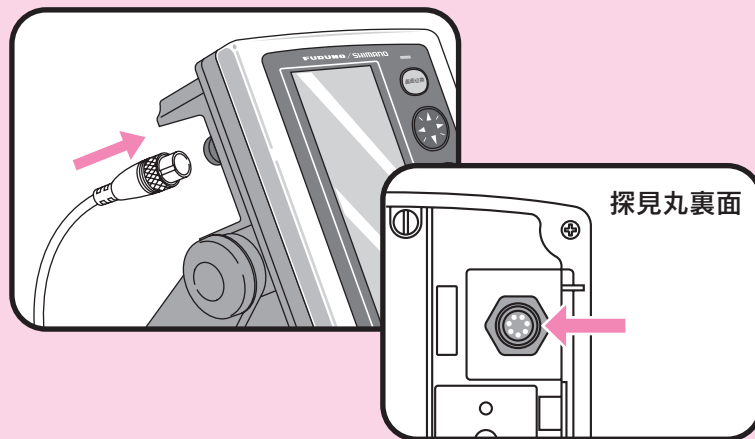
コードについて

電源との接続は必ず別売のシマノ純正通信ケーブル/電源コードを用いてください。

ご注意：
純正以外のケーブル/コードを使用されると、探見丸が正常に作動しない場合があります。また、ケーブル/コードは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると、故障の原因となります。

2 バッテリーとの接続方法

1 バッテリーに付属の電源コードを接続してください。
赤クリップを（+）側に、黒クリップを（−）側につないでください。

2 それから探見丸と通信ケーブル、もしくは電源コードを接続します。
ケーブル/コードのプラグの凹部と、探見丸の電源のコネクターの凸部を合わせ、奥まで差し込んでネジを締めてください。

3 単３電池６本でもご使用になれます。
電源ケーブルを接続しない場合はコネクタ用キャップをはめて使用してください。
電池が入った状態でバッテリーから電源を取ることも可能です。その際はバッテリーからの電源が優先されます。

探見丸システムについて

対応電動丸を組み合わせた場合の機能について、詳細は11ページをご覧下さい。

探見丸システム

11ページもご参照下さい。

親機からの魚探映像を無線でキャッチ。船べりで魚探が見える！

あらかじめ遊漁船に設置された親機魚探からの情報を探見丸がキャッチ。
釣座に居ながらにして魚探の映像を見ることができる画期的なシステムです。
〔探見丸対応遊漁船につきましては、弊社ホームページ、パンフレット等をご覧下さい。〕

※ご注意　探見丸に映る映像はご自身の位置ではなく、親機送受波器の位置映像です。

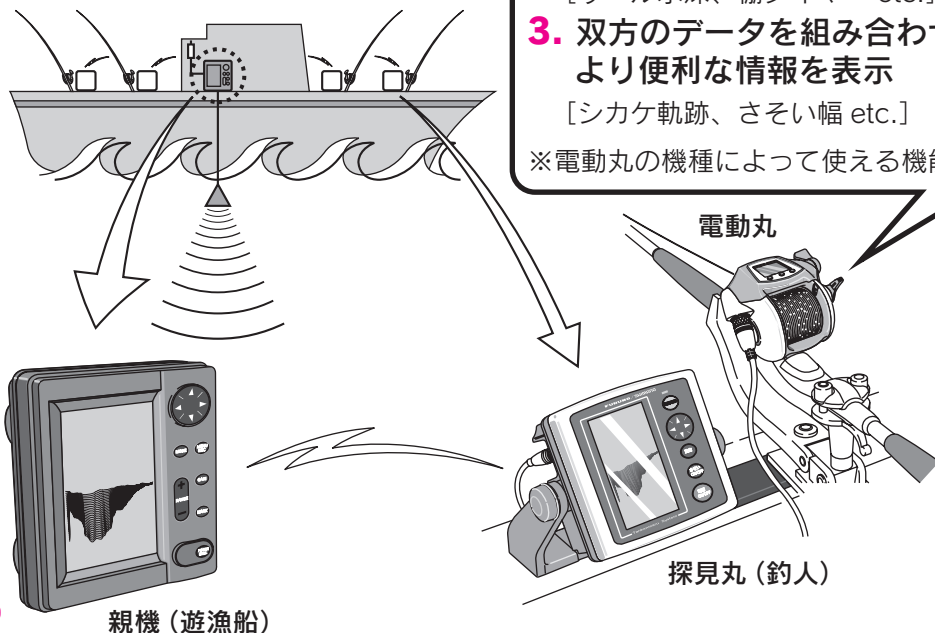
探見丸システム対応

さらに探見丸システム対応電動丸と組み合わせることで、双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

1. 電動丸の操作が探見丸で可能に
［さそい、棚停止、オートシャクリ etc.］

2. 電動丸からのデータを探見丸で表示
［リール水深、棚タイマー etc.］

3. 双方のデータを組み合わせて より便利な情報を表示
［シカケ軌跡、さそい幅 etc.］

※電動丸の機種によって使える機能は異なります。

電動丸

探見丸（釣人）

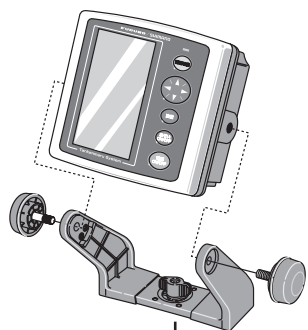
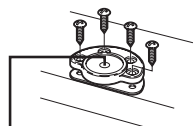
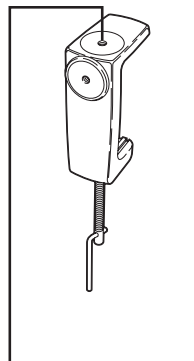
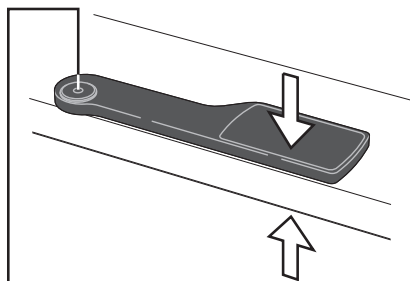
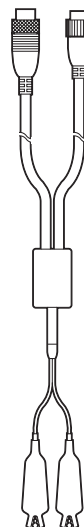
親機（遊漁船）

探見丸システムは、船のキャビンに設置された親機となる魚探が取った映像を電波で飛ばし、船縁に設置された子機がその電波を受け、魚探映像が映るというシステムです。
08探見丸CVはその通信を確固たるものとするための子機で、通信する「船名」を選択していただく必要があります。
港では船が密着しており、数隻の船名が出る場合があります。必ず乗船された船名を確認していただき、選択してください。
海上でも他船の電波が拾える場合がありますが、通信電波の特性上、子機が正常に電波を拾えません。また、海底映像としても自船のものではないので、情報として釣りに全く応用できません。
自船の電波をしっかりキャッチしていただき、見る事のできなかった海底映像を見ながら、より想像を膨らませ、楽しい釣りのひとときをお過ごしください。

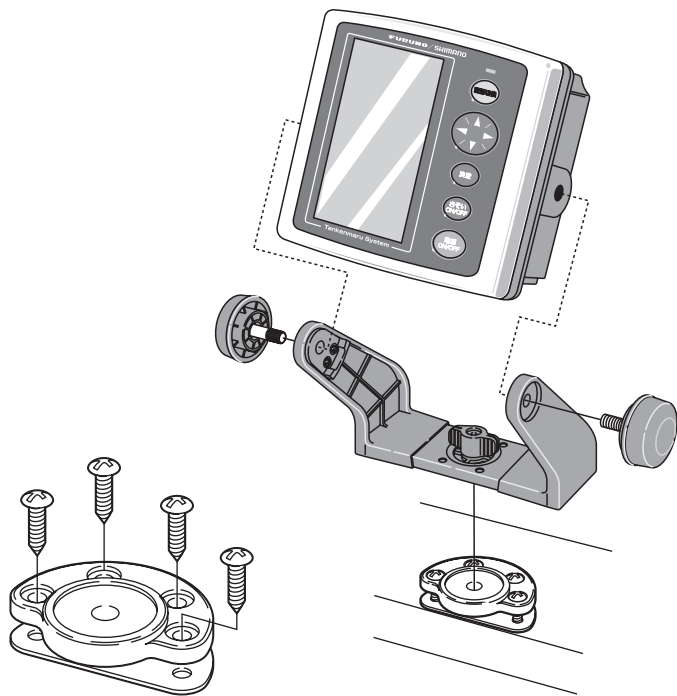
ご注意：
親機がシフトされている場合、ボトムラインは自動的にＯＦＦとなります。又、親機の設定及び使用状況によりボトムラインが海底をトレースできない場合がありますが、本機の故障では御座いません。魚群探知機特有の現象です。

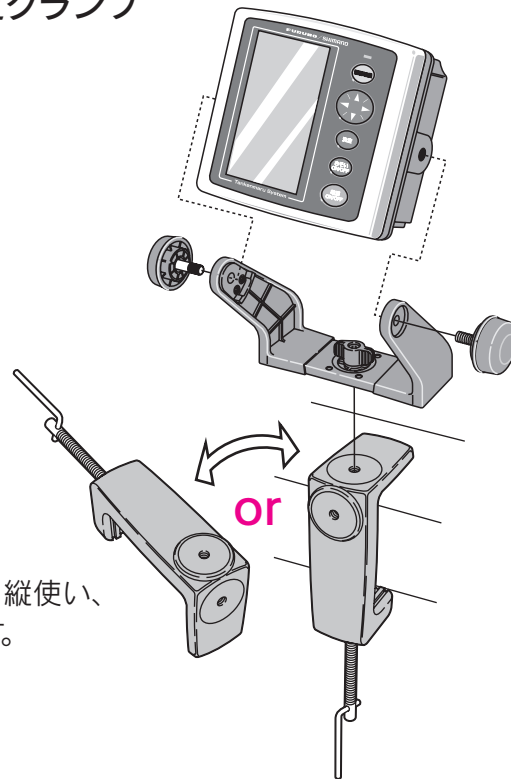
システムの設置方法

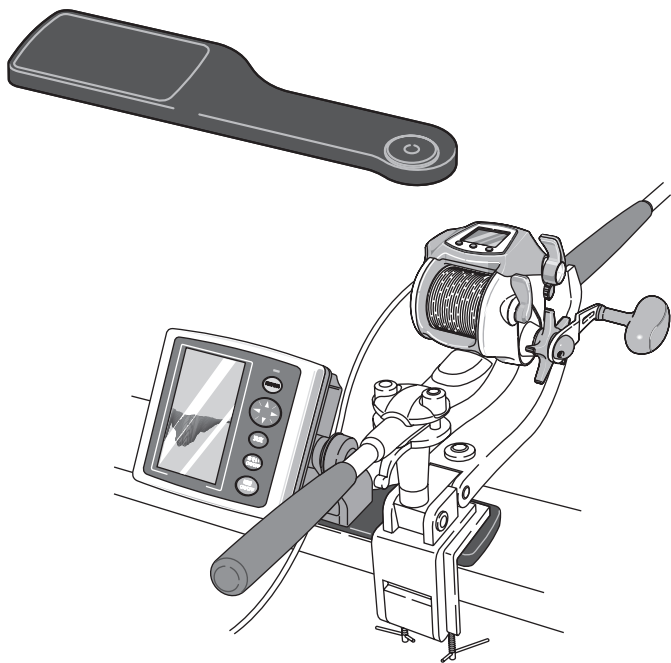
1 探見丸の設置方法は釣りのスタイルに応じてお選びいただけます。

目的に合わせて、下記の取り付け器具・コードを選んでご使用ください。

●必要に応じて、コード・取り付け器具を別途お買い求めください。

2 各取り付け器具の使用方法

① 探見丸船べりベース

ベースを船縁の手前側に仮セットし、鉛筆などで取り付け穴の位置4箇所に印を付け、Φ5mmのドリルで穴をあけて、ゴムパッキンを挟んで付属のネジで固定してください。

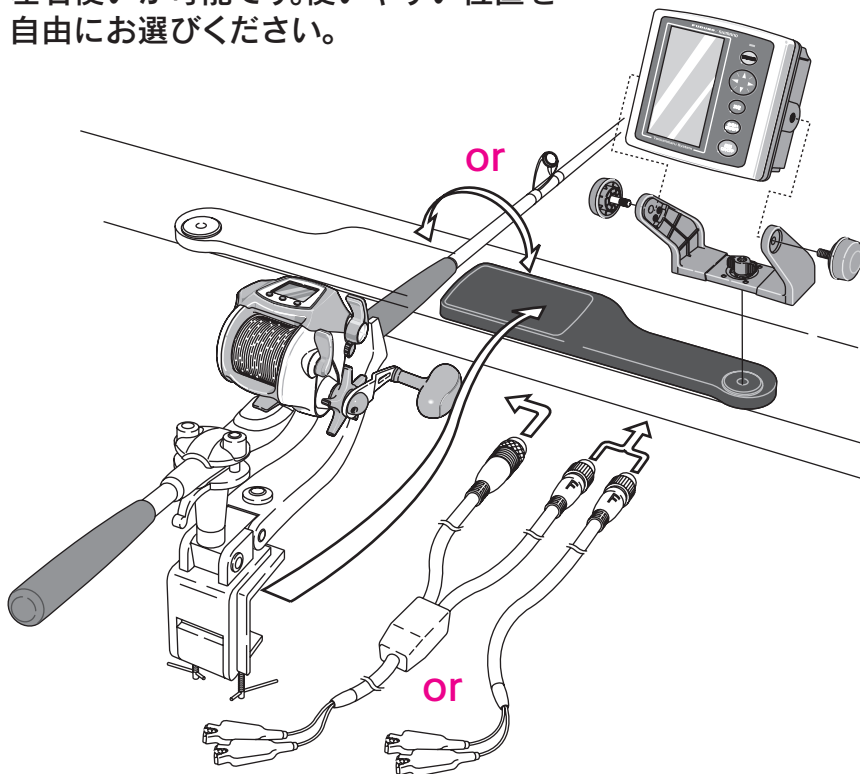
② 探見丸固定クランプ

※ご注意
一旦セットした後、ハンガーをクランプに固定している固定ボルトを緩めずに、探見丸の横方向の取付角度を無理やり調整しますと、固定クランプに緩みが生じますのでお止めください。

③ 探見丸サイドボード

ロッドキーパーで船縁に挟み込みます。
リバーシブルで左右使いが可能です。

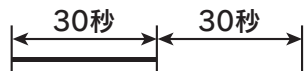
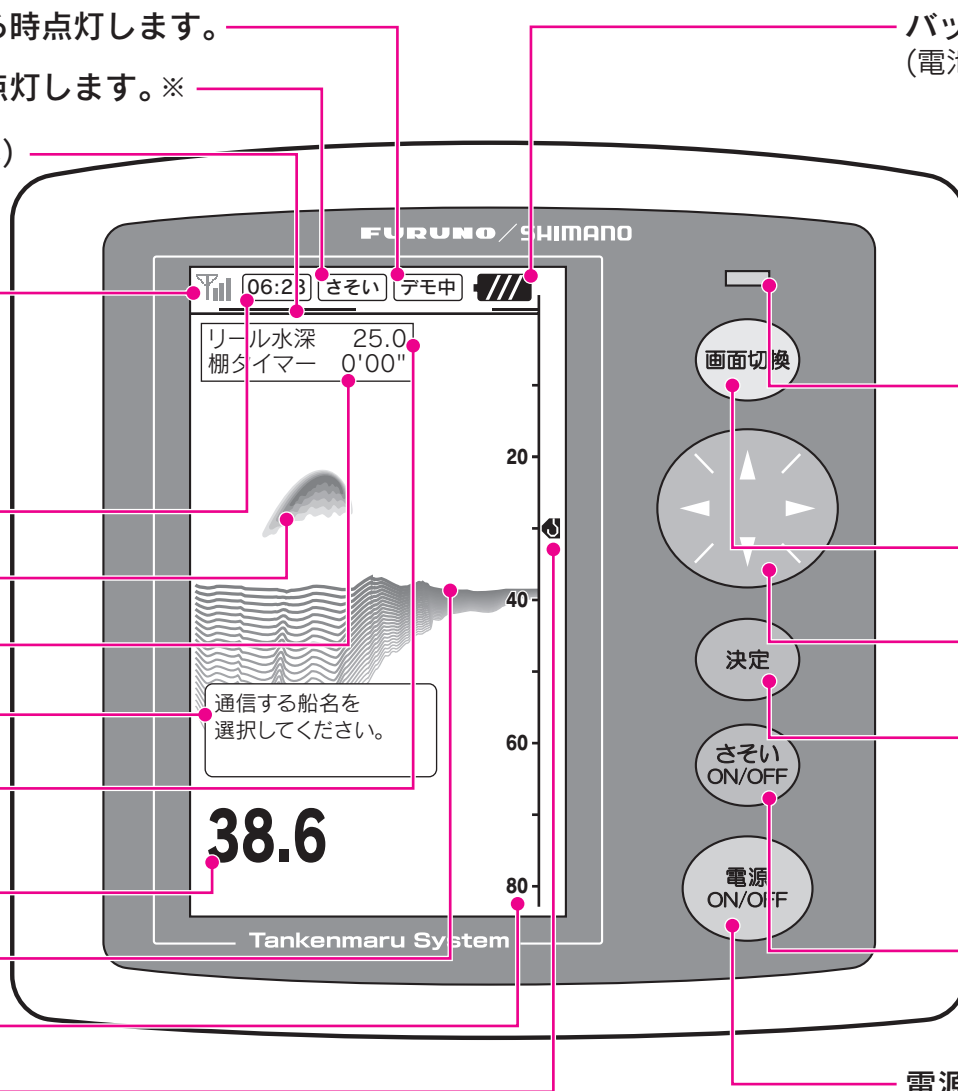
探見丸システム対応電動丸と同時にシステムを
構成する上での基本ベースです。

探見丸サイドボードはリバーシブルで
左右使いが可能です。使いやすい位置を
自由にお選びください。

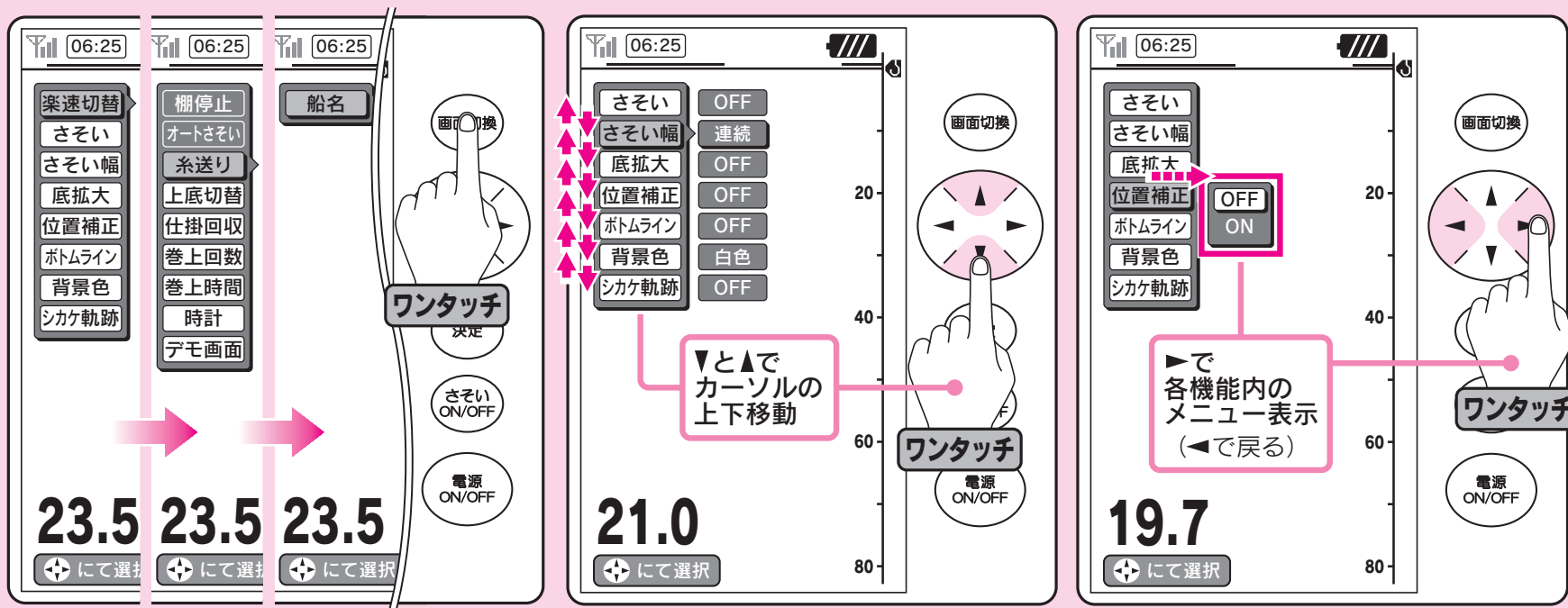
or

or

④ 探見丸・電動丸
通信ケーブル

⑤ 探見丸
電源コード

魚探画面と操作ボタンについて

●図は説明のために必要な表示を全部点灯させています。また、※印は対応電動丸接続時に機能します。

メニュー画面の操作方法

探見丸の設定は全てメニュー画面で行います。

必要に応じて下記の操作方法を参照してください。設定可能な機能は次ページをご覧ください。
（危険防止のために、電動丸接続の際はモーター OFF 時のみメニュー画面に入ることができます。）

1 **モータが停止した状態で、画面切換ボタンを押すごとに魚探画面、メニュー画面１、２、船名選択画面が順に切り替わります。**

2 **▼および▲を押して選択カーソル（枠囲み）を上下に移動させ、設定したい機能に合わせます。**選択できない機能は現在使用不可能です。設定途中に接続した電動丸のモーターをONしたり、再度画面切換ボタンを押した場合は、設定の変更が行われず、魚探画面に戻ります。

3 **►を押すと各機能内のメニューが表示されます。**
表示されるメニューの内容は選択した機能によって異なります。図は［位置補正］を選択した場合を例としています。

4 **メニュー基本画面に戻る場合は◄ボタンを押します。**

探見丸の機能一覧

取扱説明書の全ての画面図は例として表記しています。
実際とは異なりますのでご了承ください。

現在使用可能な機能の横には
現在の設定が表示されます。

探見丸単体では、
下記の機能をご使用いただけます。

④ [底拡大]…
魚探深度の下半分を縦方向に2倍に拡大表示します。
➜36ページへ

⑥ [ボトムライン]…
[ON] にすると海底部に境界線を表示します。
➜37ページへ

⑦ [背景色]…
[白色]・[青色]・[黒色] から選択可能です。
➜14ページへ

⑯ [時計]…
画面左上に時計を表示しています。
[時]・[分]・[秒] の各数値を現在の時刻に合わせてください。
➜12ページへ

⑰ [デモ画面]…
[ON] にするとデモ画面をご覧いただけます。
➜13ページへ

対応電動丸と組み合わせますと、さらに以下の機能がご使用可能です。

対応電動丸はこのマークが目印です。

※対応電動丸の機種によって
使用可能になる機能は異なります。

①[楽速切替]…
電動丸の楽楽モード・速度モードの切り替えが探見丸から操作可能です。 ➜16ページへ

②[さそい]…
電動丸にさそい動作を再現させることができます。さそいパターンを選択、または[学習]でオリジナルのさそいパターンを入力できます。 ➜21～25ページへ

③[さそい幅]…
さそい動作を行う幅の指定ができます。 ➜26ページへ

⑤[位置補正]…
シカケの位置と画面を同調させます。 ➜34～35ページへ

⑧[シカケ軌跡]…
シカケの軌跡を表示します。 ➜17～18ページへ

⑨[棚停止]…
電動丸の棚停止モード[ON]・[OFF]、および棚停止水深の設定が探見丸から操作可能です。 ➜19ページへ

⑩[オートさそい]…
棚停止後、自動的にさそい動作を開始させることができます。[棚停止]が[ON]で、[さそい]の[1]～[5]のいずれかを選択している場合にのみ設定可能です。 ➜27ページへ

⑪[糸送り]…
電動丸の自動糸送り機能の[ON]・[OFF]が探見丸から操作可能です。 ➜38ページへ

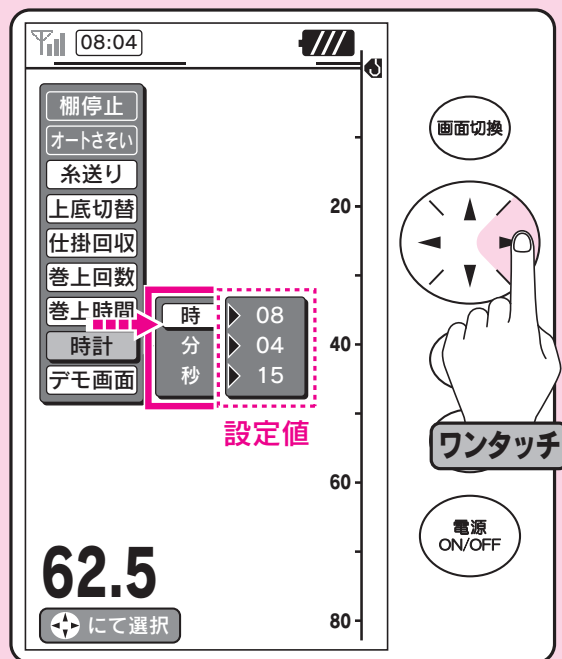
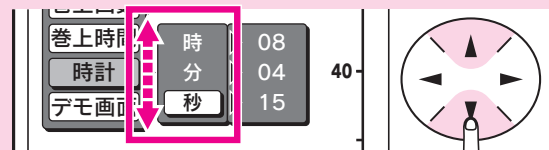
⑫[上底切替]…
電動丸水深表示の[上から]（水面から）・[底から]を探見丸から設定できます。 ➜39ページへ

⑬[仕掛回収]…
[ON]にするとレバー回収時に仕掛けが水中から船べりに回収されるまでの残り時間を魚探画面に表示します。
➜40ページへ

⑭[巻上回数]…
[ON]にすると船べりに仕掛けを巻き上げた手返しの回数がメニュー画面の巻上回数欄に表記されます。 ➜41ページへ

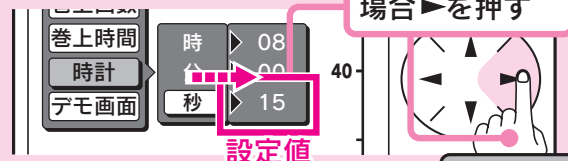
⑮[巻上時間]…
[ON]にするとモーターが作動していた時間がメニュー画面の巻上時間欄に表記されます。 ➜42ページへ

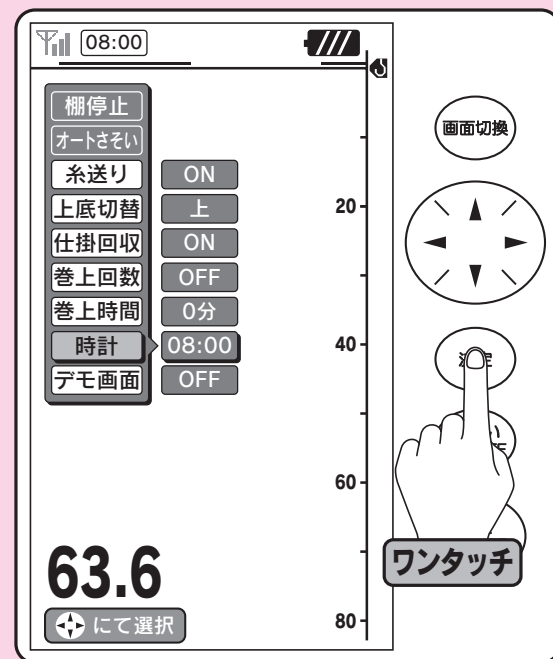
時計

画面左上に時計を表示していますので、現在の時刻に合わせてご利用ください。

1 メニュー画面で[時計]を選択し、►で[時計]のメニューを表示させせます。▼と▲で[時]･[分]･[秒]を選択して、右記の手順でそれぞれの設定値を現在の時刻に合わせます。

▼と▲で[時]･[分]･[秒]を選択しながら、下記の手順で各設定値を現在の時刻に合わせます。

設定値の変更方法

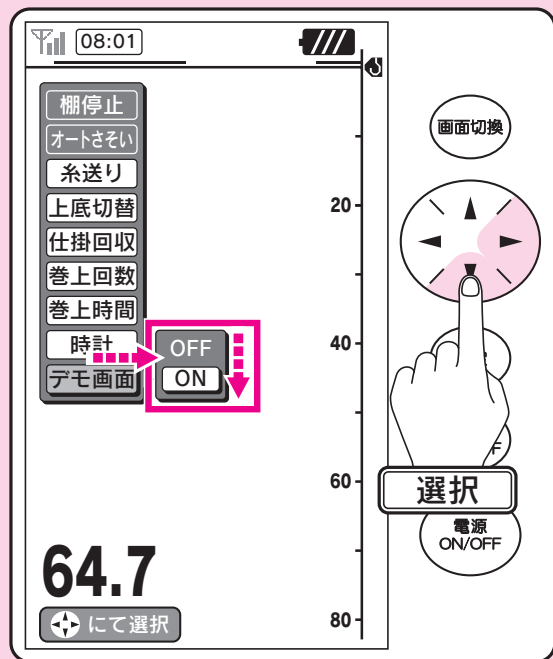
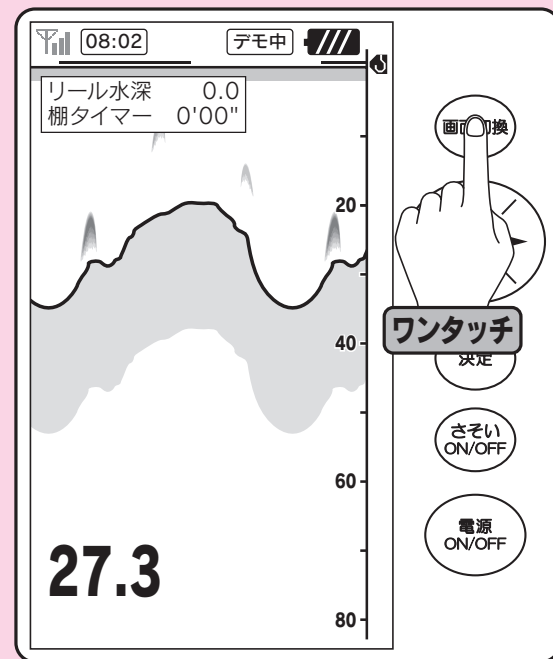
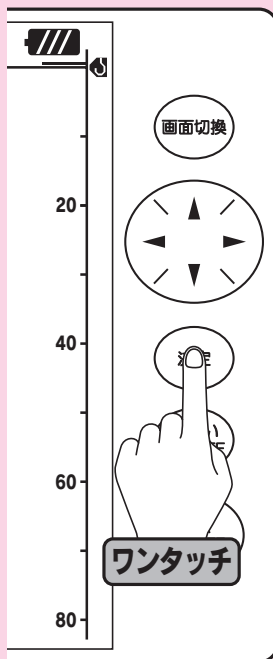
►を押してください。

数値を変更する場合►を押す

▼と▲を押すと数値が増減しますので、現在の時刻に設定してください。

他の設定値も変更する場合は◄ボタンを１回押して戻り、続けて行います。

2 決定ボタンを押せば設定完了です。

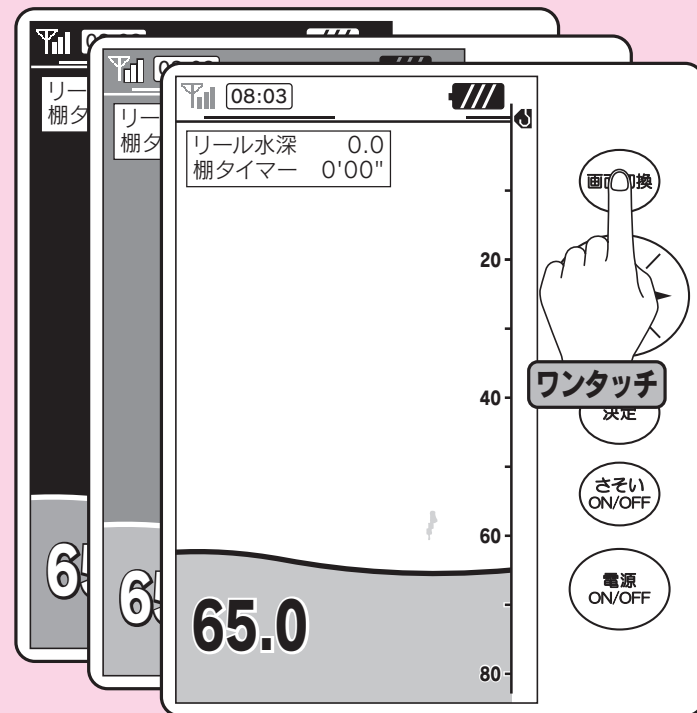
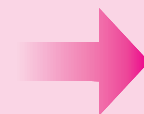
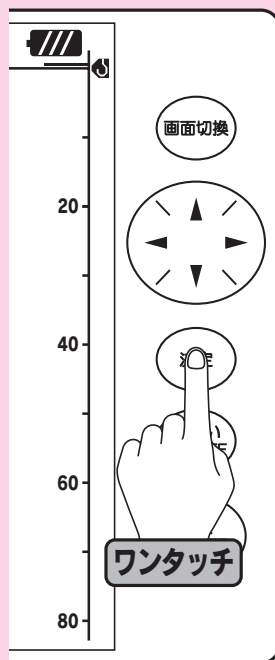
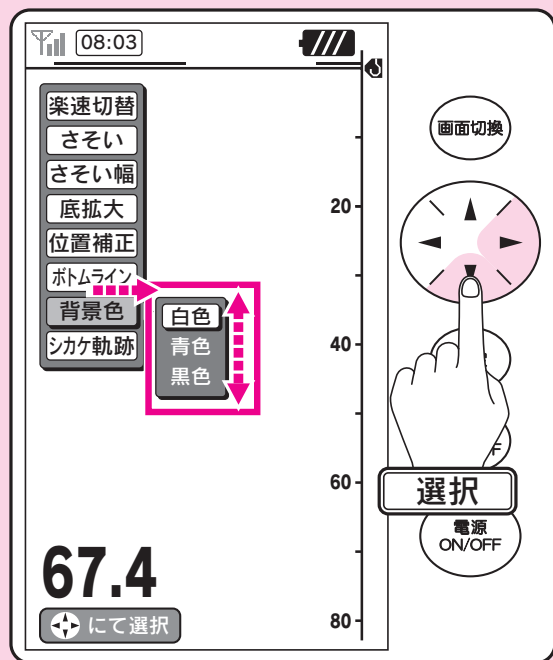
デモ画面

デモ画面をご覧いただけます。

実際の釣行前の参考としてご利用ください。

1 メニュー画面で［デモ画面］→［ON］を選択し、決定ボタンを押してください。

2 画面切換ボタンで魚探画面に戻ると、デモ画面が表示されます。

※デモ画面がONの状態でも「船名を選択」されますと自動的にOFFとなり、選択された船の映像が映し出されます。

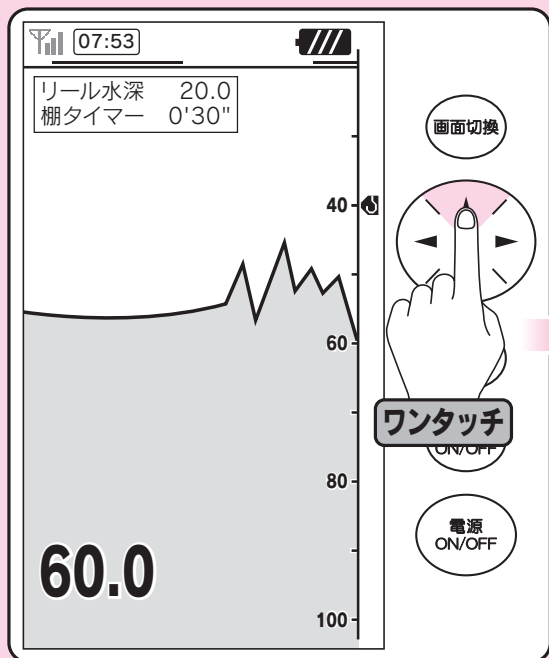
背景色

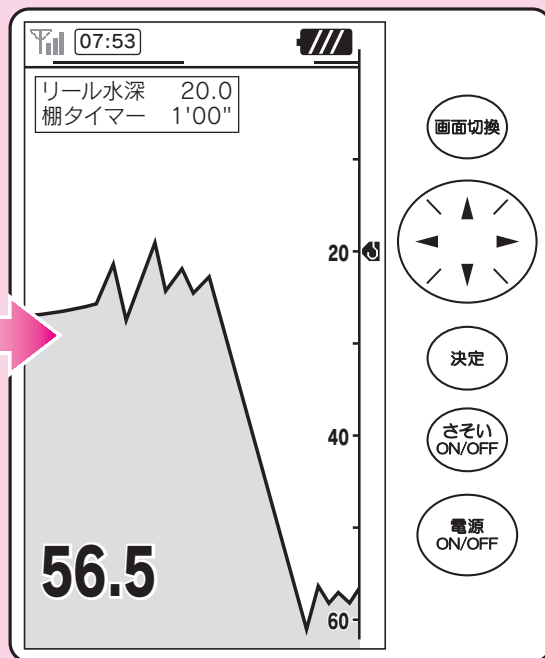
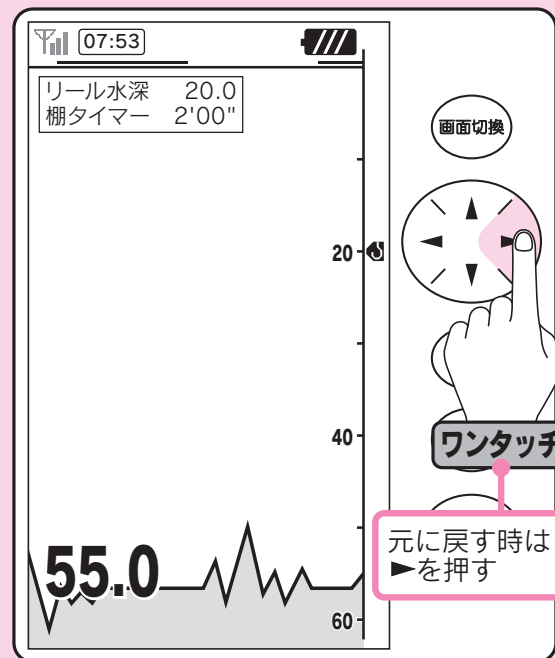
魚探画面の背景色を[白色]・[青色]・[黒色]からお好みで選択できます。

1 メニュー画面で[背景色]→[白色]・[青色]・[黒色]のいずれかを選択し、決定ボタンを押してください。

2 画面切換ボタンで魚探画面に戻ると、選択された背景色で表示されます。

深度目盛シフト機能

底の表示位置をシフトできます。

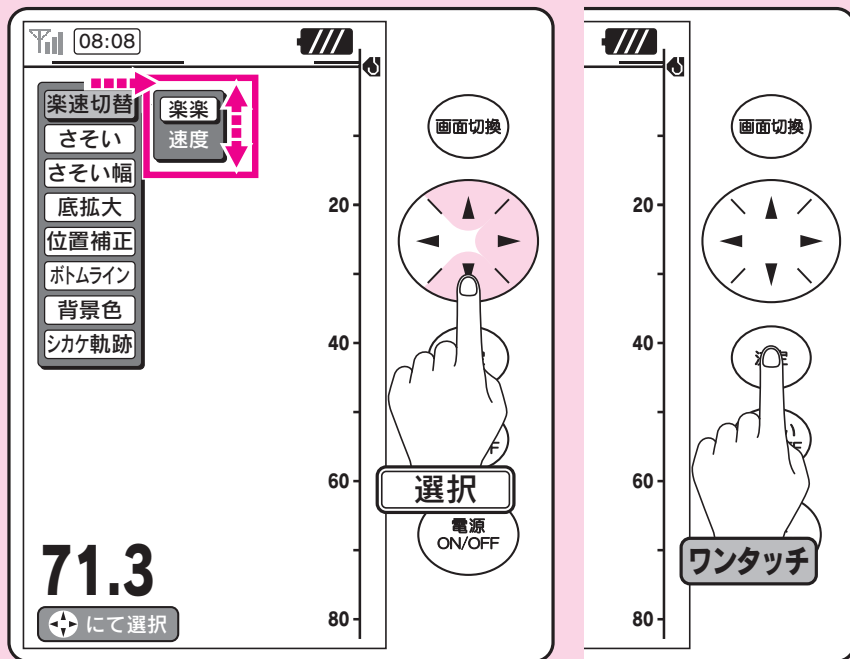
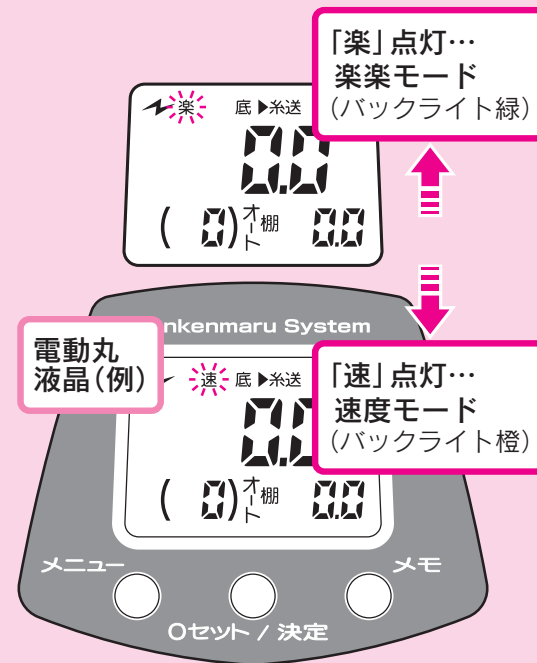
底の映像が画面の中央にあり、魚影の反応等が見づらい時、▼と▲を押すと底の表示位置をシフトすることができます。

1 もっと上を拡大して見たい！見づらい…

このような場合に▲を押すと…

2 底より上を広範囲に表示し始めます。

3 底の表示位置がシフトされました。元に戻す時は►で戻ります。

楽速モード切替

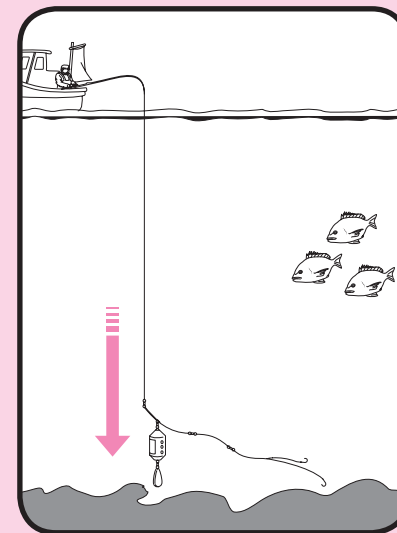
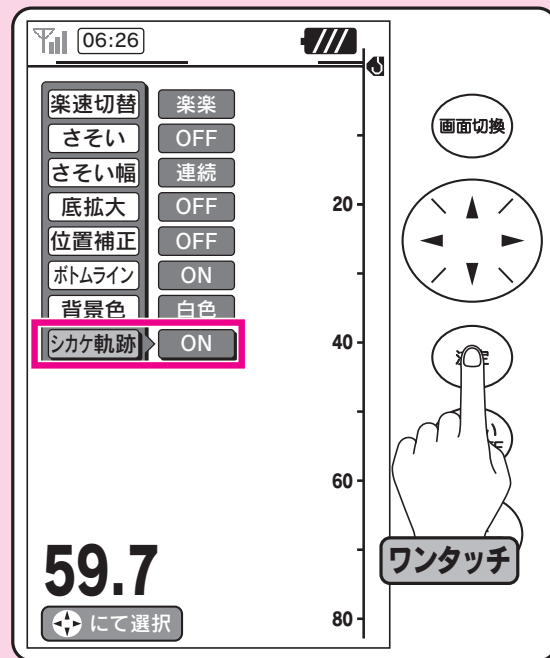
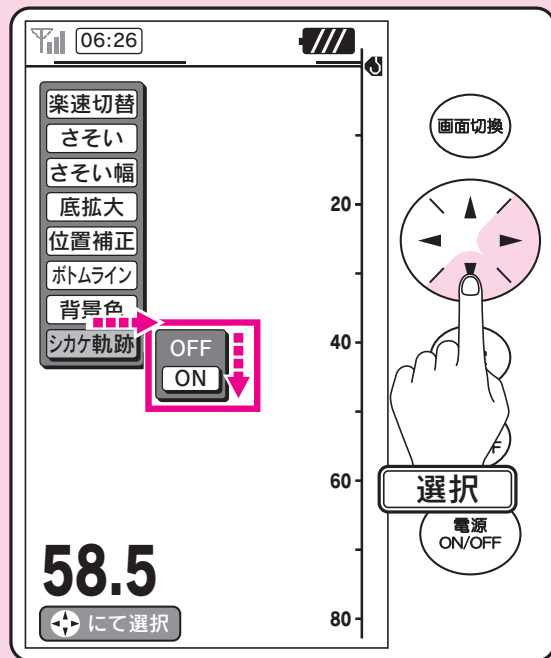
ご使用の電動丸の楽楽モード・速度モードの切り替えが探見丸から操作できます。

楽楽モード・速度モード切り替えの詳細は対応電動丸取扱説明書をご参照ください。

※2008年以降の電動丸に対応しています。

1 メニュー画面で[楽速切替]→[楽楽]または[速度]を選択し、決定ボタンを押してください。

2 電動丸の設定が変更されます。

シカケ軌跡

投入したシカケの軌跡を表示することができます。

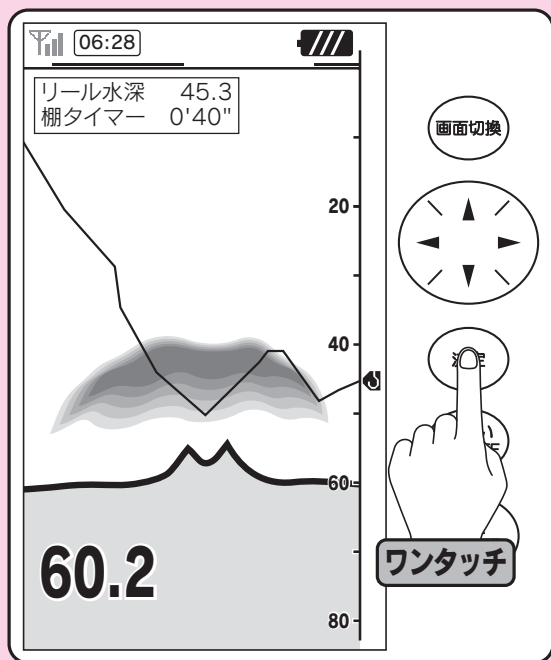
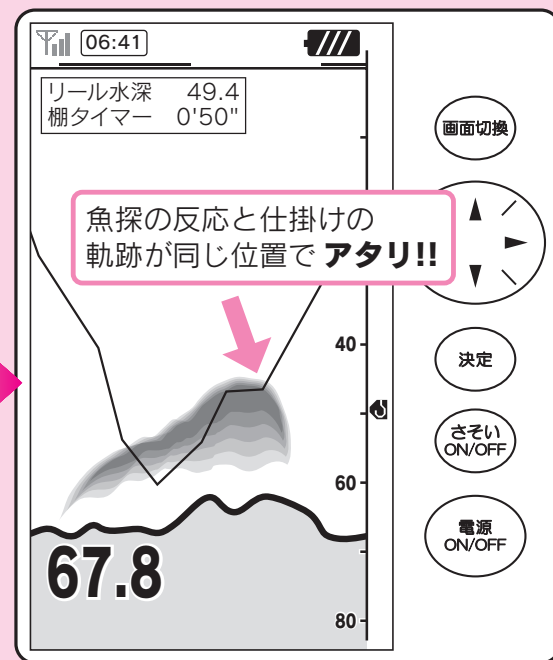
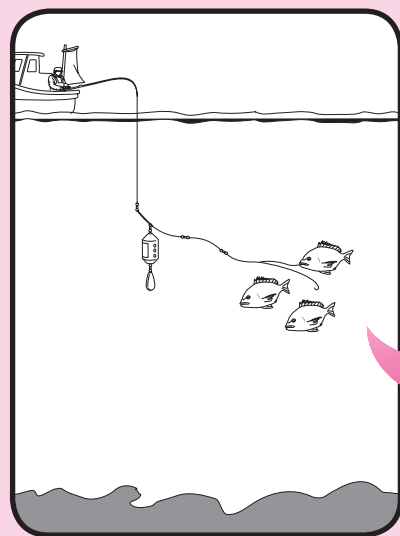
底の形状とシカケ位置の相関がたどれますので、どの時点でアタリがあったかなど簡単に把握でき、
さそいの目安や次回投入時の参考、コマセのタイミング等に便利です。（※先にシカケ位置補正を行うと、より正確な表示となります。）

シカケ投入

1 メニュー画面で［シカケ軌跡］→［ON］を選択してください。

2 決定ボタンを押せば設定完了です。
シカケ軌跡がONになります。

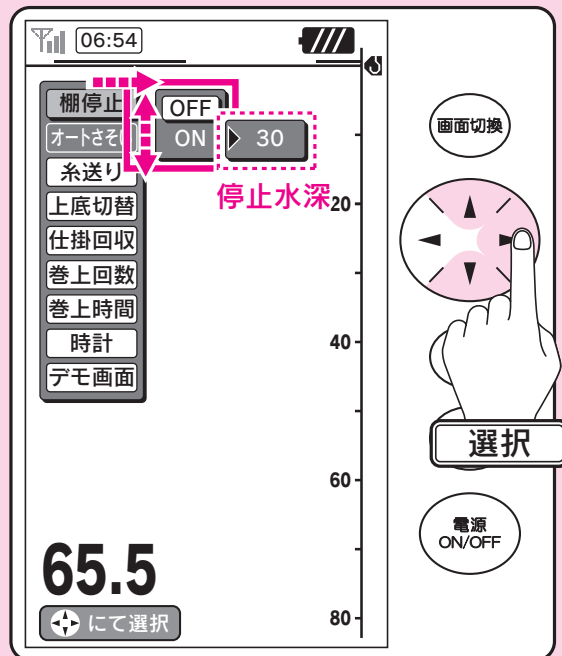
3 画面切換ボタンを押して魚探画面に戻り、シカケを投入します。

ご注意　シカケ軌跡はリール水深をトレースしています。従いまして糸巻学習、0セットを正確に行っておりませんと、正しい表示を行えませんのでご注意ください。

次ページにつづく

4 シカケマークの位置をトレースして、
魚探画面上に軌跡が表示されます。

5 アタリがあった状況が一目で判ります。
さそいの目安や次回投入時の参考、コマセのタイミング等、応用範囲が広がります。

棚停止の設定

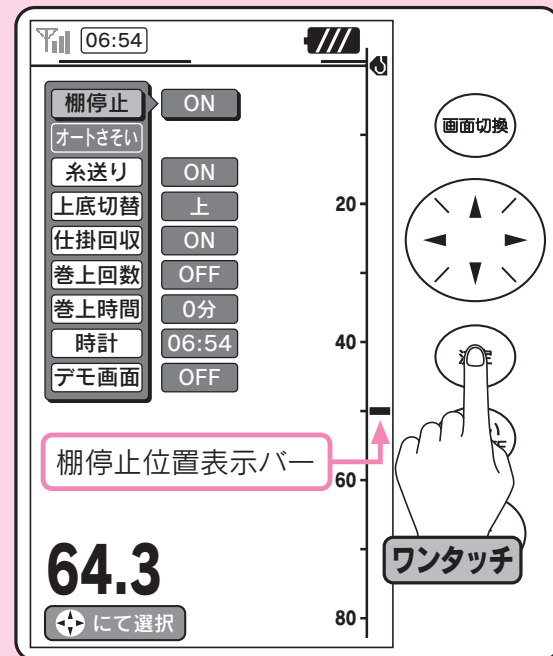
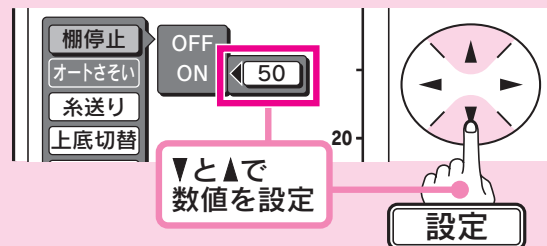
探見丸から棚停止モード、棚停止水深の設定が可能です。

探見丸からも設定の変更が行えます。棚停止モードの詳細は対応電動丸取扱説明書をご参照ください。

1 メニュー画面で[棚停止]→[ON]または[OFF]を選択してください。

[ON]を選択した場合に、棚停止の水深を変更したい時は下記の手順で行います。

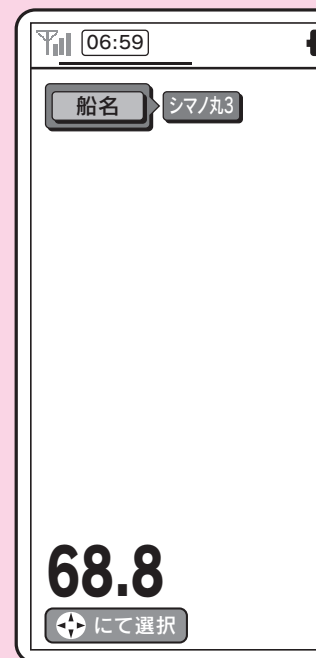
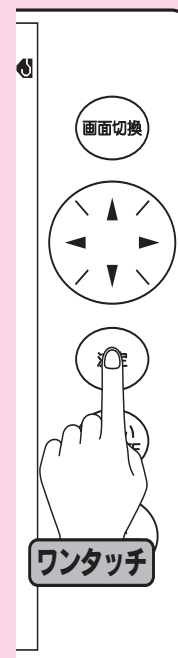
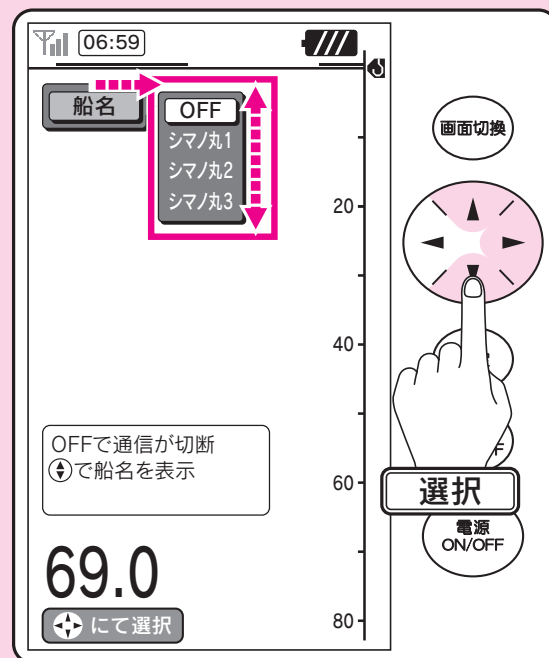
棚停止水深の変更方法

►を押してください。

▼と▲を押すと数値が増減しますので、お好みの水深（m）に設定してください。

2 **決定ボタンを押せば設定完了です。**
棚停止の設定が変更されます。
[ON]に設定した場合は棚停止位置がバーで表示されます。

ご乗船される船名の選択

乗船される船名を選択してください。

探見丸システムは、船のキャビンに設置された親機となる魚探が取った映像を電波で飛ばし、船縁に設置された子機がその電波を受け、魚探映像が映るというシステムです。
08探見丸CVは、その通信を確固たるものとするための子機で、通信する「船名」を選択していただく必要があります。
港では船が密着しており、数隻の船名が出る場合があります。必ず乗船された船名を確認していただき選択してください。
海上でも他船の電波が拾える場合がありますが、通信電波の特性上、子機が正常に電波を拾えません。
また、海底映像としても自船のものではないので、情報として釣りに全く応用できません。
自船の電波をしっかりキャッチしていただき、見る事のできなかった海底映像を見ながら、より想像を膨らませ、楽しい釣りのひとときをお過ごしください。

1 船名選択画面で►を押してメニューを表示させます。▼と▲で通信する船名を選択し、決定ボタンを押してください。約50m範囲の親機の電波を拾います。

2 船名が設定されます。

さそいの準備

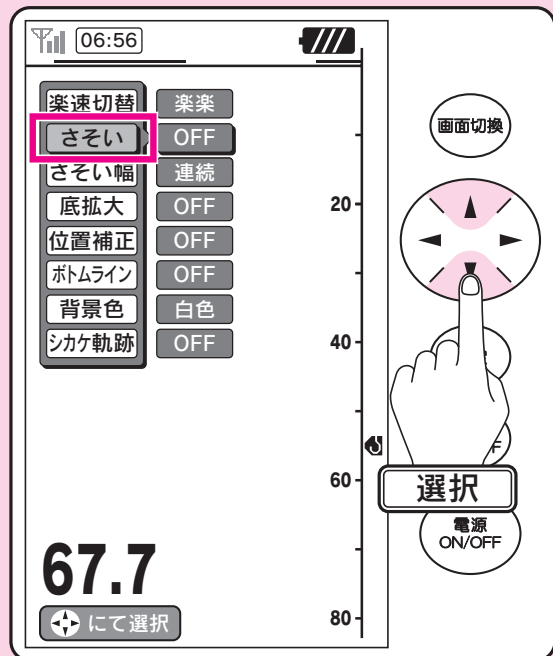
探見丸に内蔵しているさそいパターン、またはお好みのパターンで電動丸がさそい動作を再現します。

一日中シャクリ続けるイカ釣りには特に便利です。

● [さそい]メニューの一覧

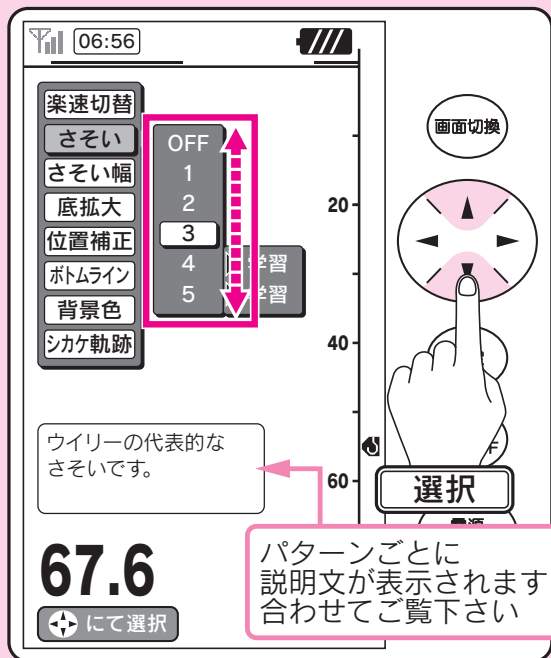
[1]… 代表的な２段シャクリ
[2]… 代表的な３段シャクリ
[3]… ウイリーの代表的なさそい
[4]… お好みのさそいパターン
[5]… お好みのさそいパターン

※ご注意

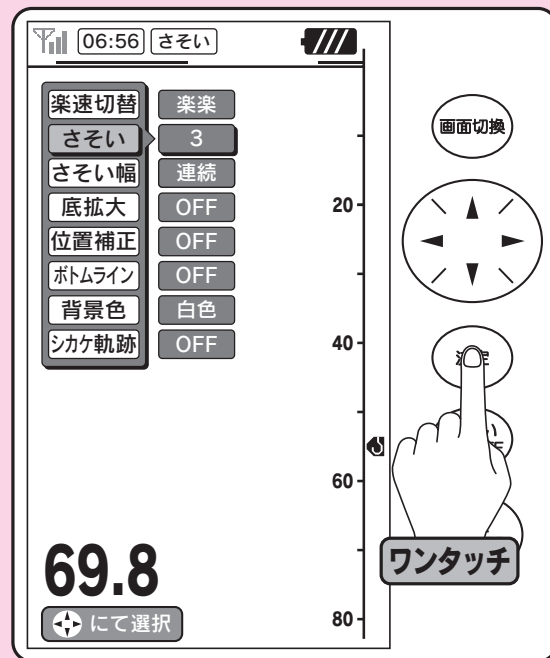
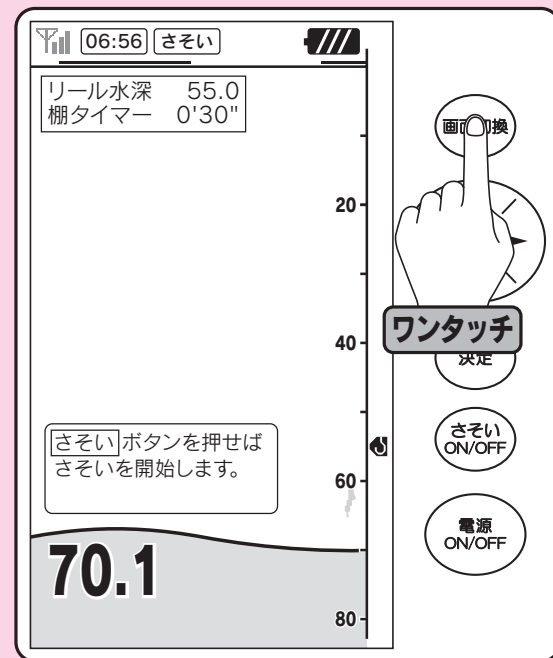
あらかじめ記憶しているさそいのパターンは代表的な例であり、竿の調子・オモリ負荷・水深等、条件によって動作は変化します。実情に合わない場合はお客様オリジナルのパターンを入力の上、再現される事をお勧めします。

1 魚探画面より、モータが停止した状態で画面切換ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。選択カーソルを[さそい]に合わせてください。

2 ►を押すと[さそい]のメニューが表示されます。

[1]～[3]は上記のさそいパターン、[4]と[5]はお好みのさそいパターンとなっています。

次ページにつづく

3 ▼と▲でさそいパターンを選択してください。

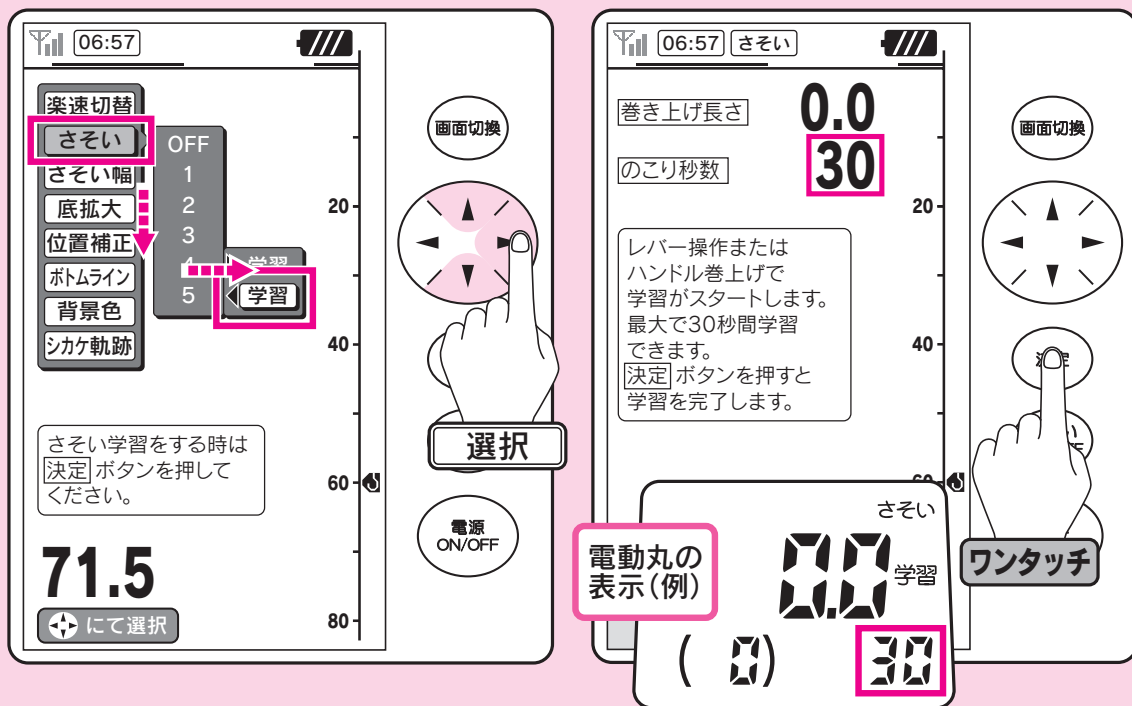
[さそい]→[4]･[5]は、出荷時には超スロー巻き上げのデータが入っています。

[4]･[5]に新しいパターンを入力し直す場合は、ここから次ページ「さそいの学習」へお進みください。

4 決定ボタンを押せば設定完了です。

5 画面切換ボタンを押して魚探画面に戻ると表示は図のようになります。

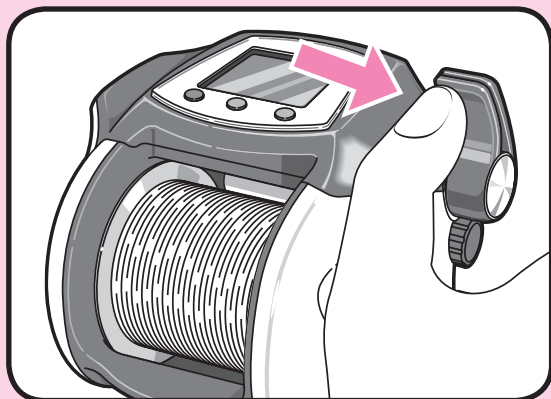
これで電動丸にさそいを再現させる準備ができました。

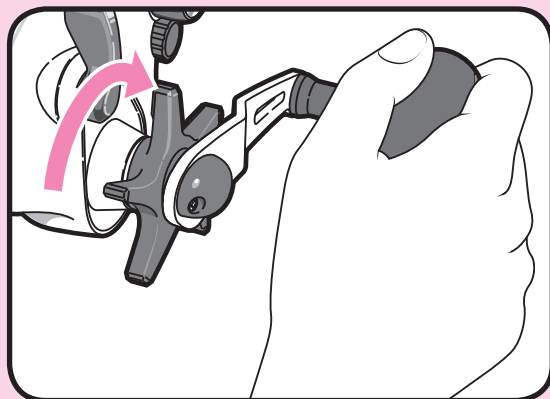
さそいを開始する場合は28ページ「釣りでさそい機能を使用する」へ進みます。

さそいの学習

あなたのオリジナルのさそいパターンも学習・再現できます。

1 さそい項目の[4]か[5]を選択し、カーソルを[学習]に進めます。

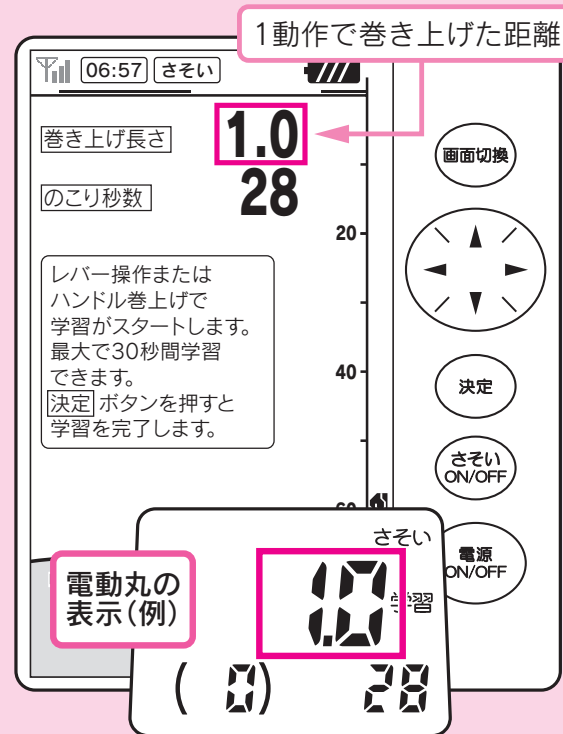
2 決定ボタンを押すとさそい学習画面になります。さそい学習は最大30秒間記憶させることができます。
□部分に記憶可能な秒数が表示されます。レバーやハンドルで巻き上げ始めると記憶を開始し、同時に記憶可能な秒数のカウントダウンが始まります。

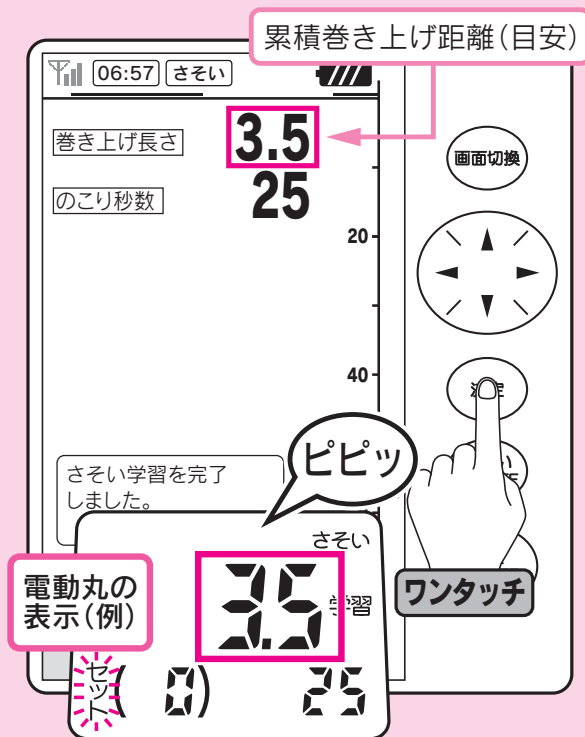
次ページにつづく

●テクニカルレバーで入力する場合

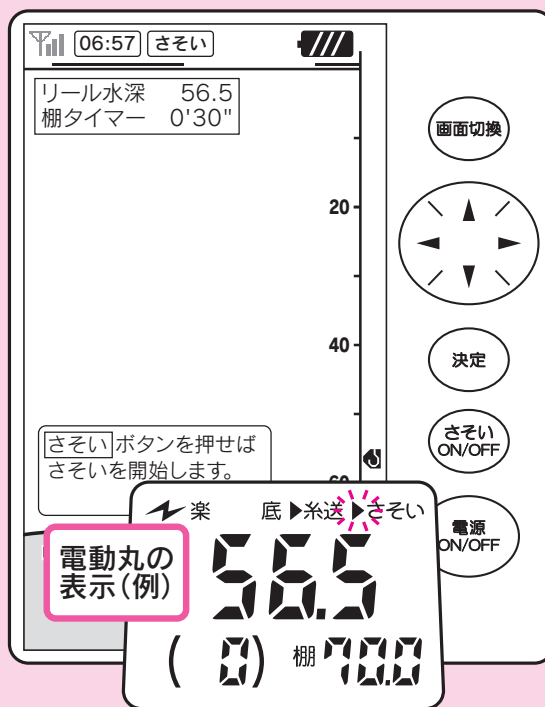
記憶させたいタイミングと速度で巻き上げ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。

●ハンドルで入力する場合

好みの速さでハンドルを回転させ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。

ハンドル1回転に2秒以上要する超スローな巻き上げは学習しません。

また、テクニカルレバーの最高速度以上でスプールが回転した場合は、テクニカルレバーの最高速として学習します。

3 テクニカルレバーかハンドル操作でさそい学習を開始し、お好みの巻き上げ時間、停止時間を再現してください。

記憶可能な残り秒数のカウントダウンが開始し、□部分に1動作ごとに巻き上げた糸の長さを表示します。

4 **決定ボタンを押せばさそい学習が完了します。**

決定ボタンを押さなかった場合は学習開始から30秒で自動的に終了します。
カウントダウンがスタートした時点からのしゃくり、さそいが記憶されます。
さそい学習終了時の表示は図のようになります。□部分に目安ですが、累積巻き上げ距離を表示します。

5 **2秒後、自動的に魚探画面に戻ります。**

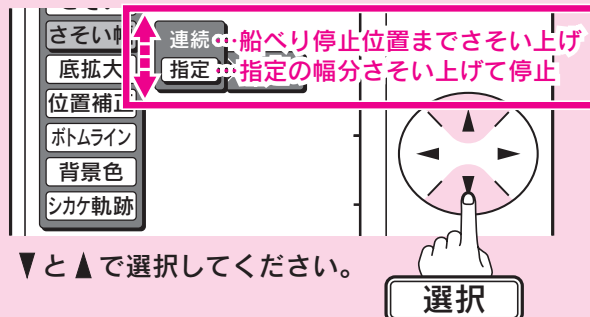
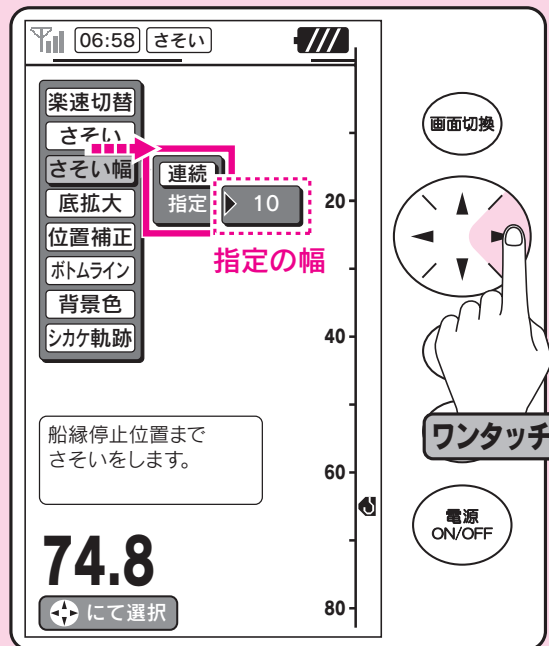
図のように表示されます。電動丸側の「さそい」横に▶マークが点灯します。
※新たにさそい学習を入力しますと、前の学習データは消えます。

さそい学習を間違えたり、やり直したい場合は、再度メニュー画面から入力していただき、上書きしてください。
これで電動丸にさそいを再現させる準備ができました。
さそいを開始する場合は28ページ「釣りでさそい機能を使用する」へ進みます。

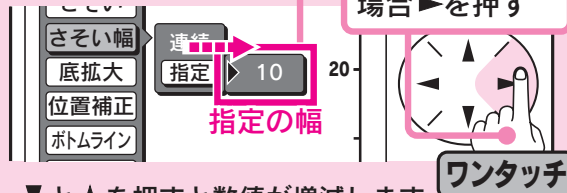
さそい幅の指定

必要に応じて、さそい動作を行う幅の指定ができます。

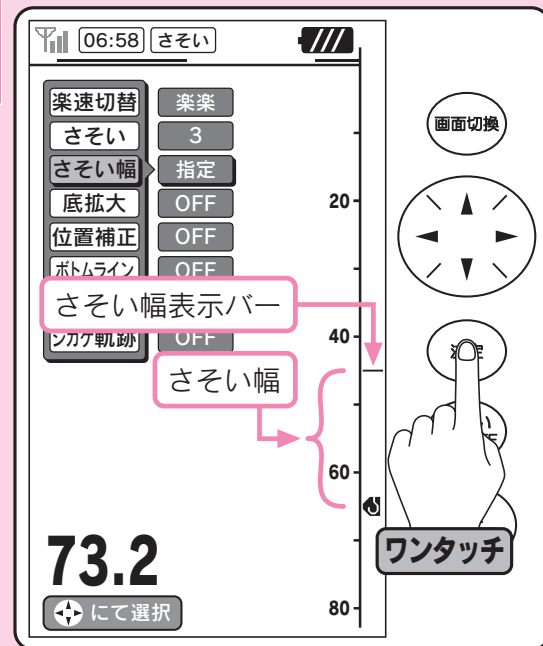
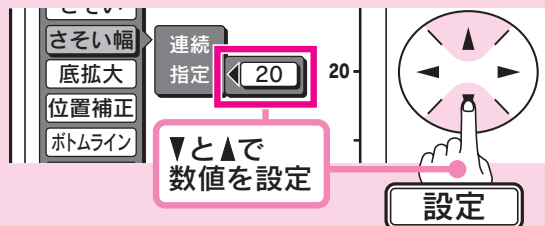
さそい再現時に指定の幅分さそい上げて停止するよう設定できます。さそい再現を開始する度にさそい幅分さそい上げて停止します。

▼と▲で選択してください。

[指定]を選択した場合に、指定の幅を変更したい時は下記の手順で行います。

指定の幅の変更方法

►を押してください。

▼と▲を押すと数値が増減しますので、お好みの幅（m）に設定してください。

1 **メニュー画面で[さそい幅]を選択し、►で[さそい幅]のメニューを表示させます。**各メニューで下記の設定ができます。

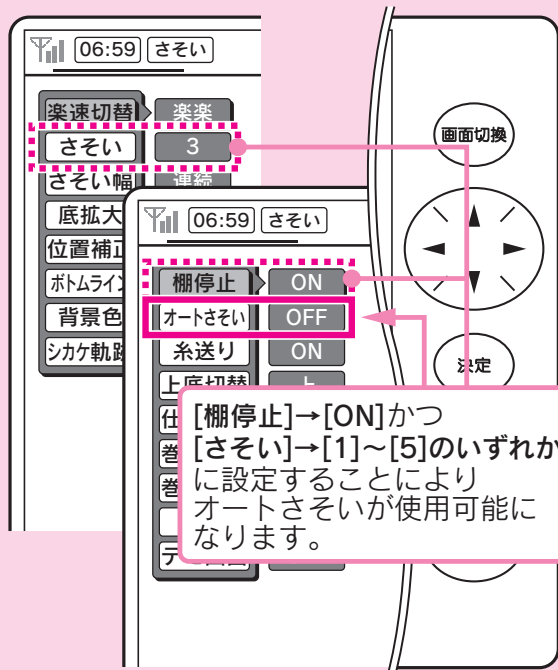
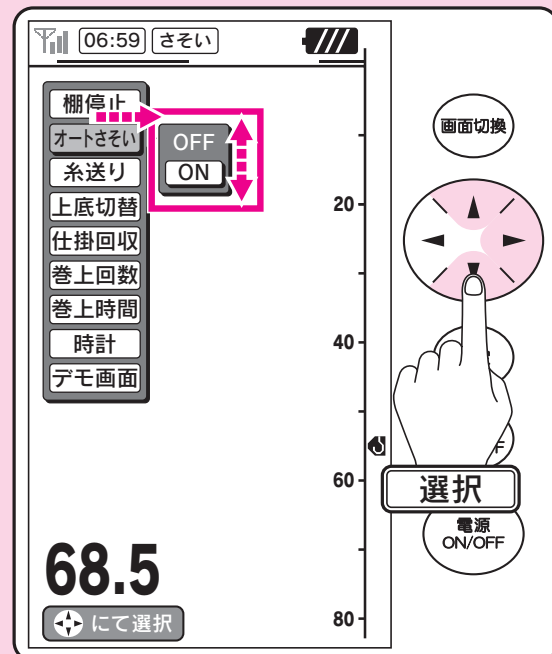
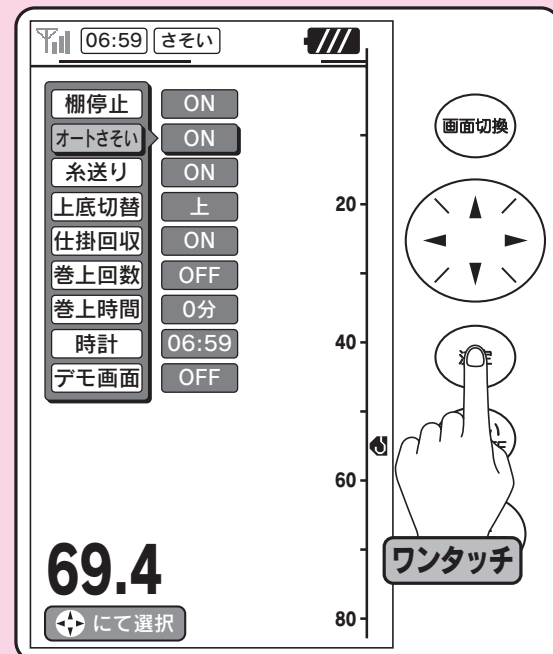
[連続]…
船べり停止位置までさそい上げます。
[指定]…
指定の幅（m）分さそい上げて停止します。

2 **決定ボタンを押せば設定完了です。**

さそい幅の設定が変更されます。
[さそい]→[1]～[5]のいずれかに設定した状態で[指定]に変更した場合はさそい幅がバーで表示されます。

オートさそいの設定

棚停止後、自動的にさそい再現を開始させることができます。

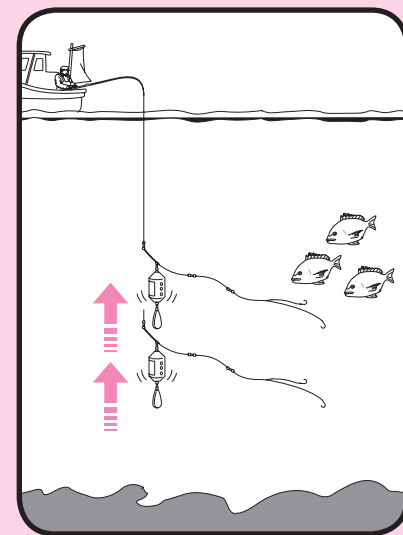
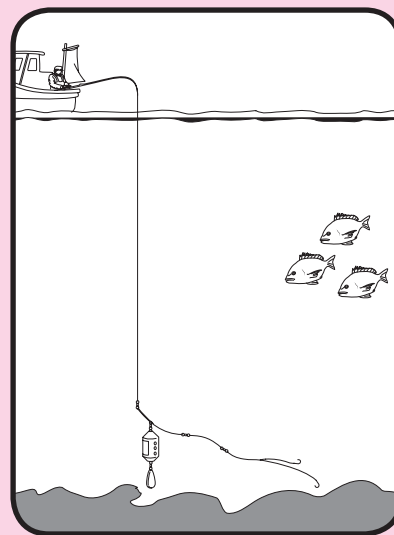
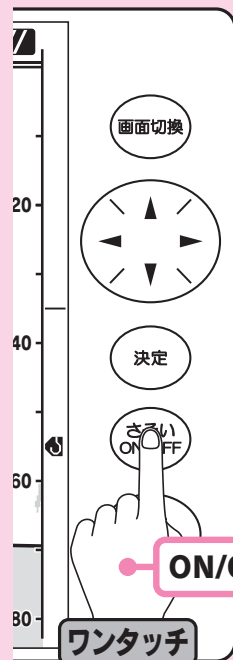
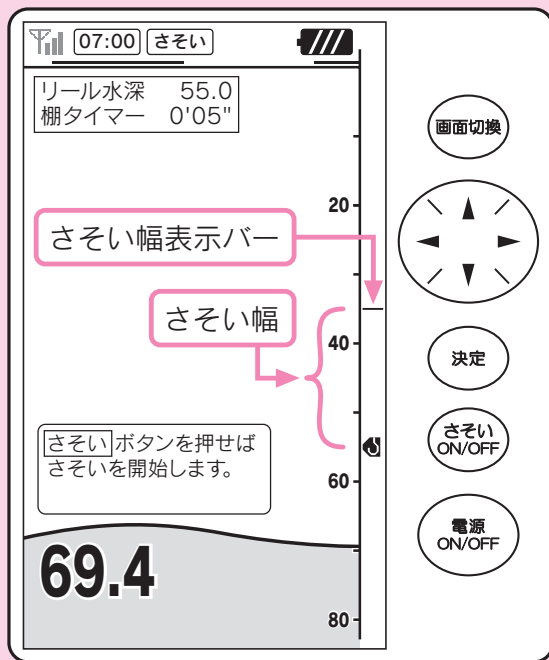
この機能は[棚停止]が[ON]で、[さそい]の[1]～[5]のいずれかを選択している場合にのみ有効です。

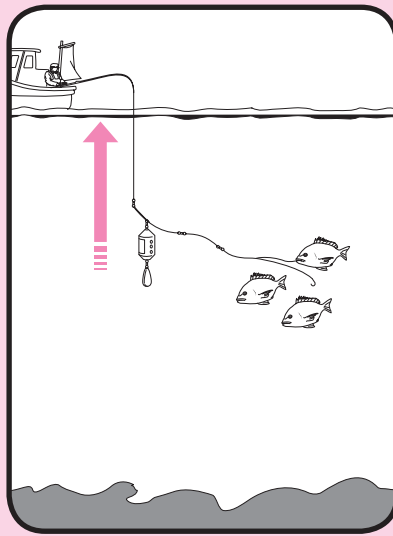
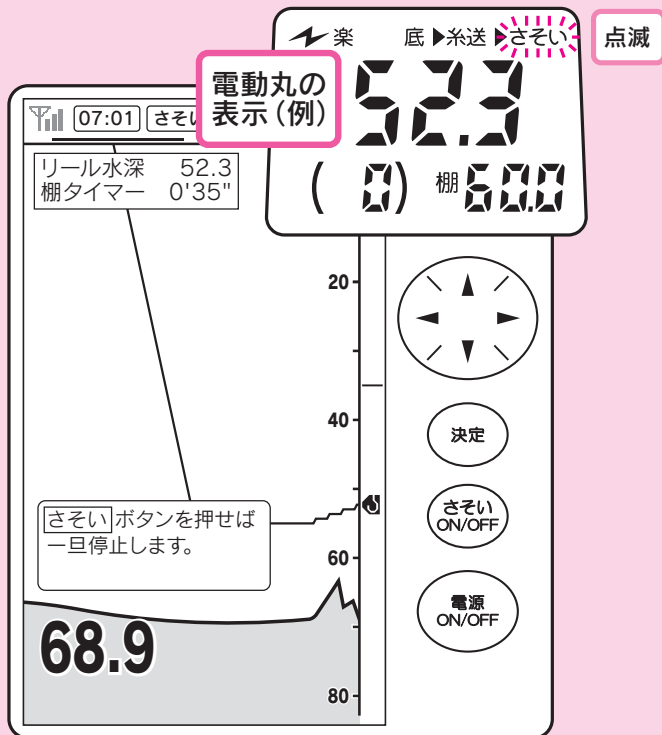
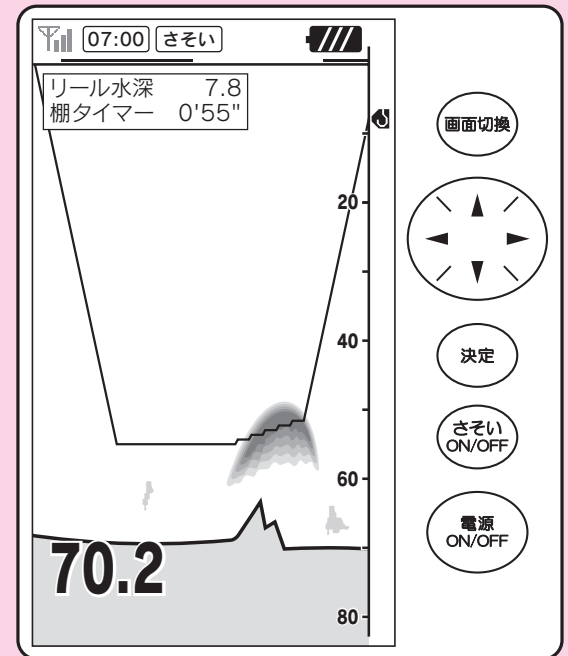
※オートさそいは自動棚停止機能付きの電動丸のみにご使用いただけます。

1 あらかじめ[棚停止]→[ON]の選択および棚停止水深の設定（19ページ参照）、[さそい]→[1]～[5]いずれかへの設定（21～25ページ参照）を行うと、[オートさそい]が有効になり、機能が使用できるようになります。

2 メニュー画面で[オートさそい]を選択し、►で[オートさそい]のメニューを表示させます。
▼と▲で[ON]または[OFF]を選択してください。

3 決定ボタンを押せば設定完了です。
[オートさそい]を[ON]に設定すると、棚停止の２秒後、自動的にさそい動作の再現を開始します。
[棚停止]、または[さそい]をOFFにした場合、[オートさそい]は設定変更・使用ともにできなくなります。

釣りでさそい機能を使用する

さあ！いよいよ設定したさそいを再現してみましょう。

さそいボタンON
さそい開始！

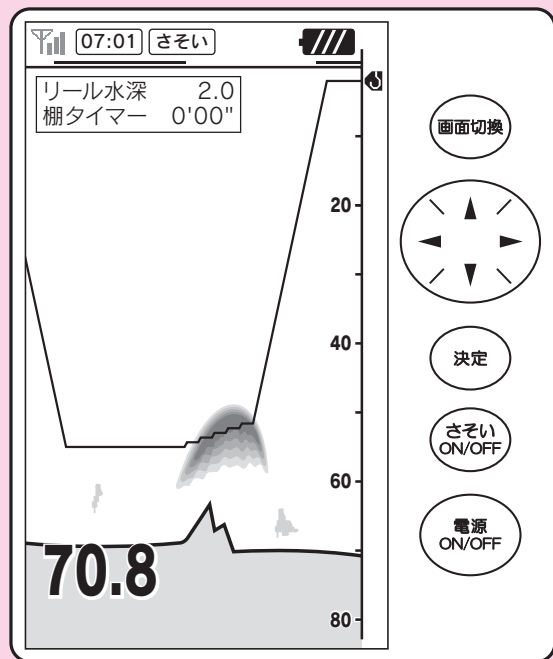
さそい動作再現中

1 あらかじめ21～27ページまでの各さそいの設定を行っておきます。
魚探画面になっていない場合は画面切換ボタンで魚探画面に切り換えてください。
表示は図のようになっています。(図の場合、さそい幅は20mです。)

2 **さそいON/OFFボタンを押すと、記憶したさそいパターンをくり返し行います。**
さそい幅を指定している場合は、指定の幅分さそいパターンをくり返して停止します。
さそい動作の途中停止、再スタートもさそいON/OFFボタンを押します。
さそい幅指定で途中停止した場合は、停止水深から残りの幅をさそって停止します。

アタリ！巻き上げ

さそい動作中の表示は図のようになります。（[シカケ軌跡]をONにした場合、画面のように軌跡のラインが表記されます。）
電動丸は「さそい」表示が点滅します。

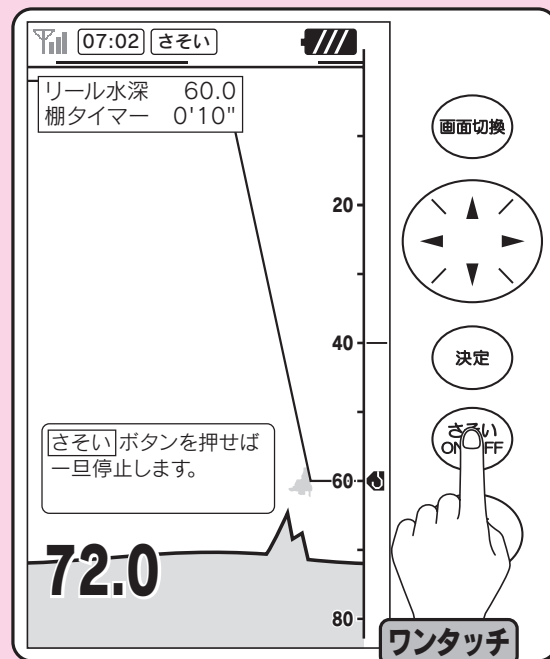
3 アタリがあればテクニカルレバーで巻き上げます。

さそい動作の途中で仕掛け回収を始めた場合（ハンドルで巻く・レバーを作動）さそい動作はキャンセルされ巻き上げ優先となります。

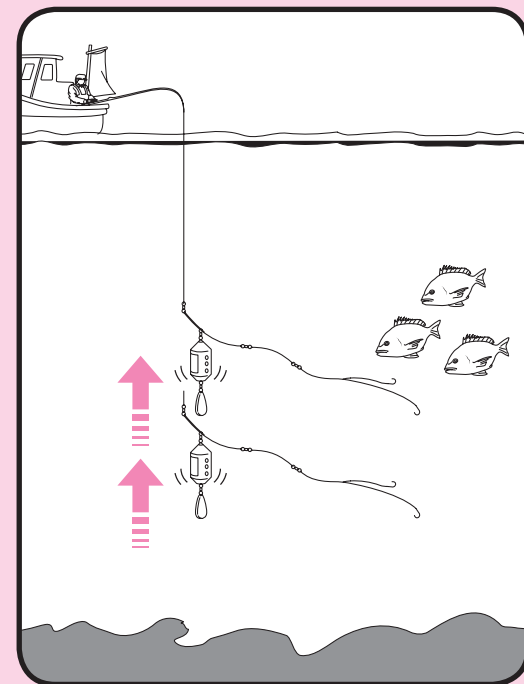
魚を取り込み、もう一度仕掛けをおろして さそい動作を行いましょう。

07:02 さそい
リール水深 60.0
棚タイマー 0'10"
さそいボタンを押せば
一旦停止します。
72.0
ワンタッチ

さそいボタンON
再びさそい開始！

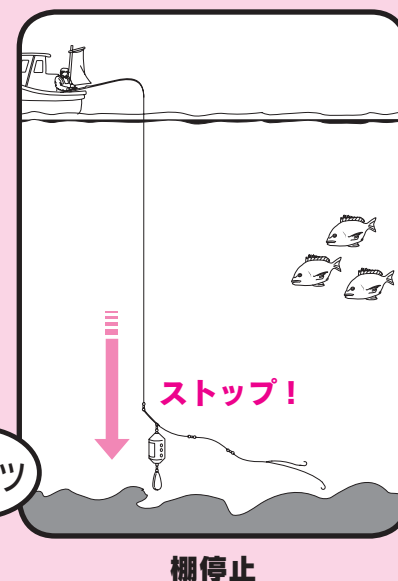
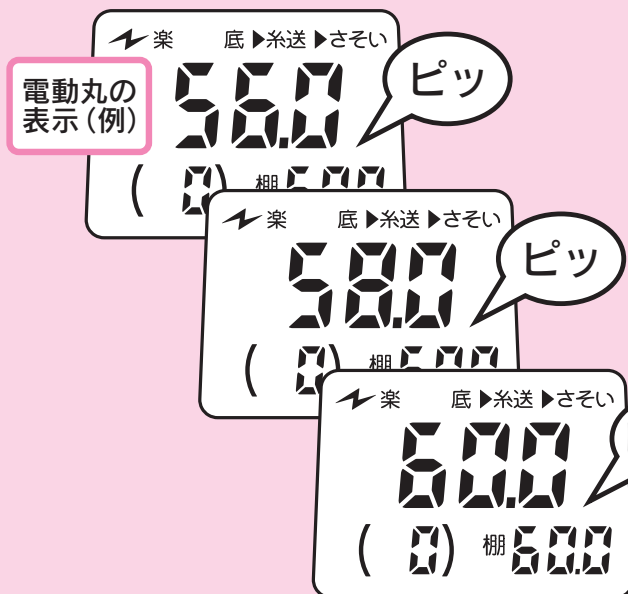
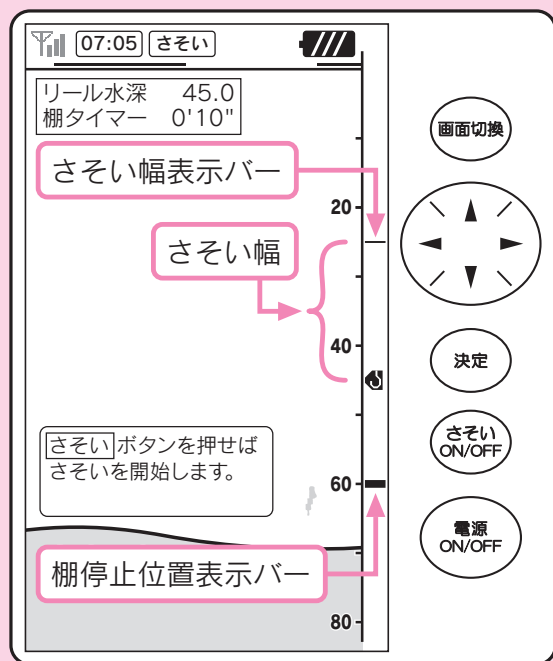
4 仕掛け回収で船べり停止した時の表示は図のようになります。

同じさそいで釣りを続ける場合は再度投入します。やめる場合はメニュー画面を呼び出し、[さそい]メニューより[OFF]を選択してください。

5 さそい動作を続ける場合、シカケをもう一度棚までおろします。

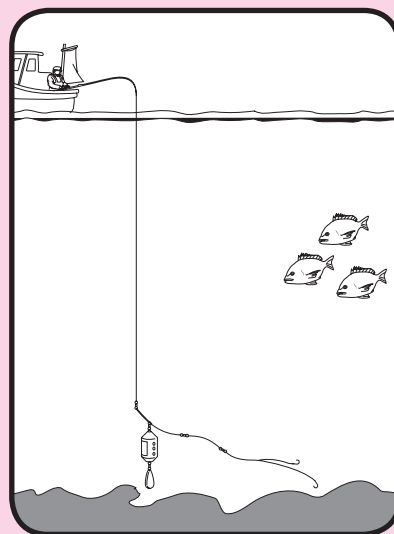
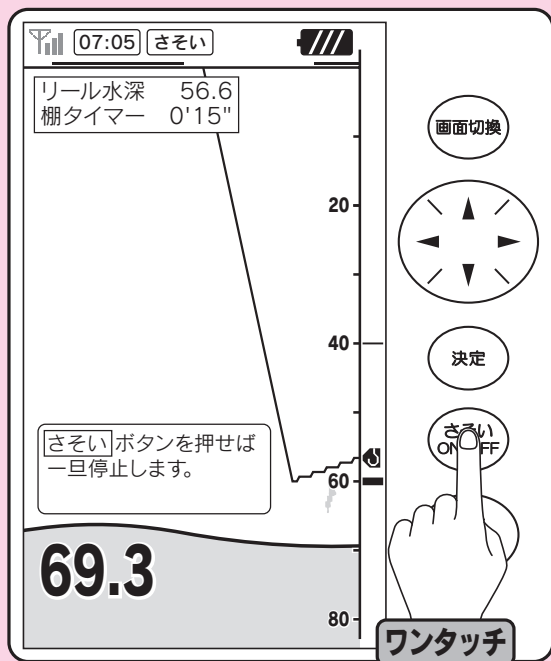
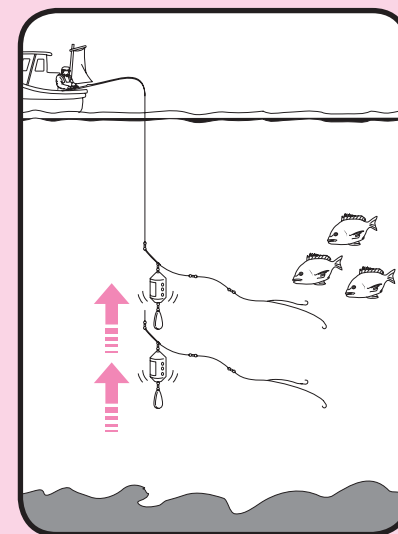
図は60mまでシカケをおろした場合です。

[棚停止]・[オートさそい]をONに設定している場合は自動的にシカケが棚停止し、2秒後に再びさそい再現を開始します。

そうでない場合はシカケをおろした後、図のようにさそいON/OFFボタンをONにすると、再度記憶した巻き上げをくり返し行います。

釣りでさそい機能を使用する（棚停止の利用）

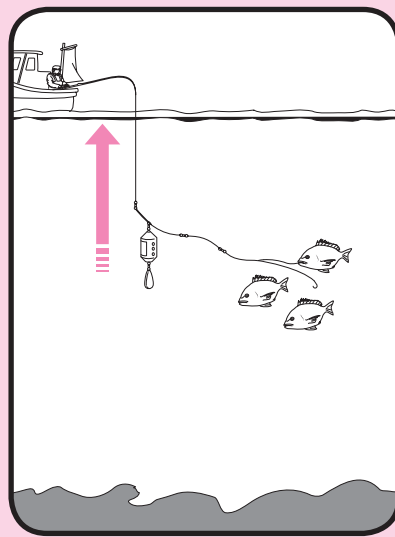
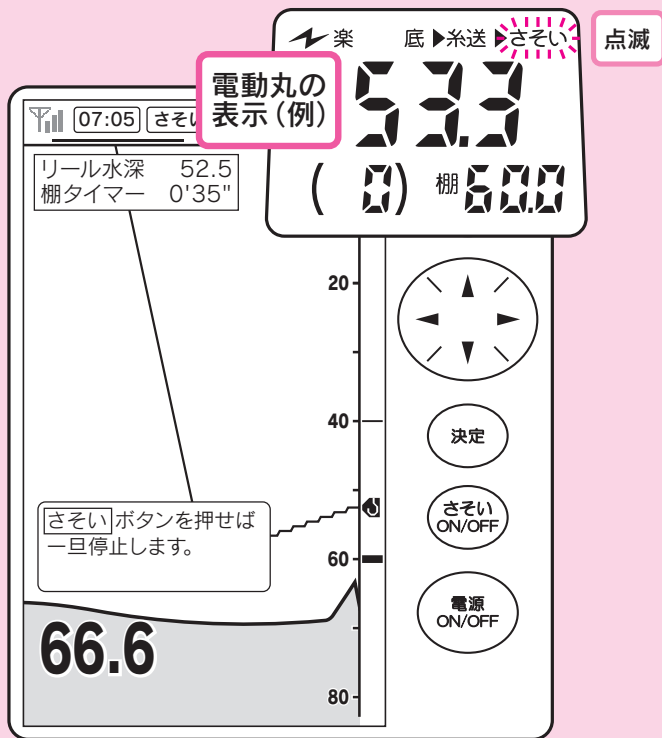
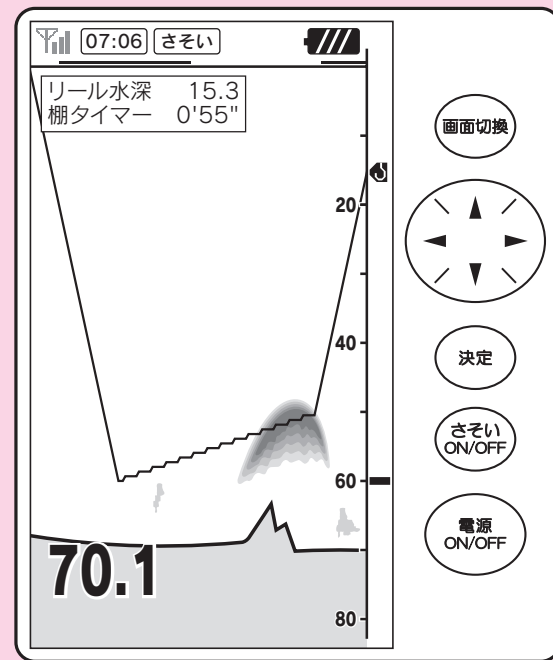
棚停止を利用してさそい動作を行ってみましょう。

1 あらかじめ［棚停止］→［ON］の選択および棚停止水深の設定（19ページ参照）、21～27ページまでの各さそいの設定を行っておきます。魚探画面になっていない場合は画面切換ボタンで魚探画面に切り換えてください。表示は図のようになっています。（図の場合、さそい幅は20mです。）

2 **クラッチを切ってシカケを投入します。**
シカケがメモ水深（棚停止水深）に来るとシカケが自動停止します。

次ページにつづく

さそいボタンON
さそい開始！

さそい動作再現中

3 **[オートさそい]をONに設定している場合は棚停止の2秒後、自動的にさそい動作の再現を開始します。そうでない場合はさそいON/OFFボタンを押すと、記憶したさそいパターンをくり返し行います。**
([シカケ軌跡]をONにした場合、画面のように軌跡のラインが表記されます。)

[オートさそい]がONならば
自動でさそい開始！

さそい幅を指定している場合は、指定の幅分さそいパターンをくり返して停止します。
さそい動作の途中停止、再スタートもさそいON/OFFボタンを押します。
さそい幅指定で途中停止した場合は、停止水深から残りの幅をさそって停止します。

アタリ！巻き上げ

さそい動作中の表示は図のようになります。
電動丸は「さそい」表示が点滅します。

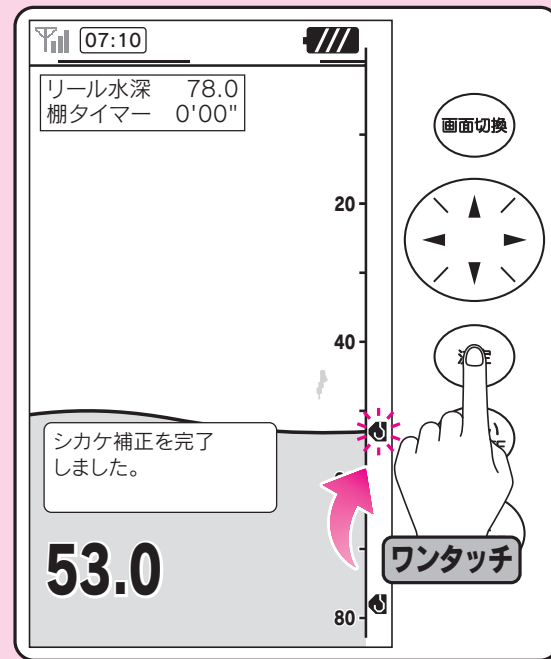
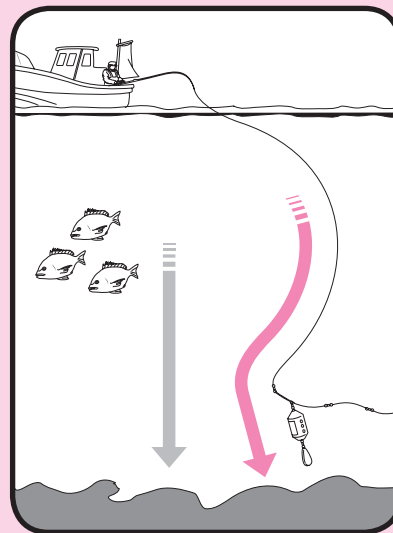
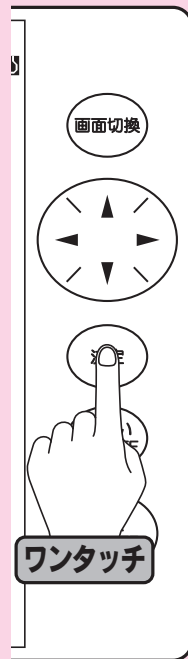
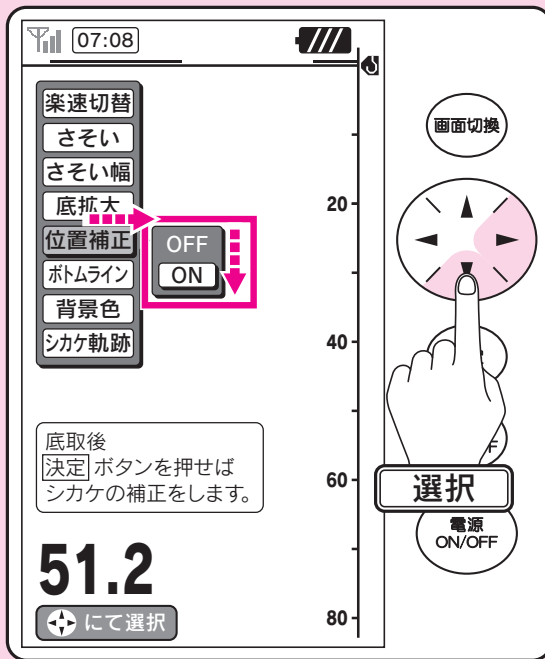
4 アタリがあればテクニカルレバーで巻き上げます。

さそい動作の途中で仕掛け回収を始めた場合（ハンドルで巻く・レバーを作動）さそい動作はキャンセルされ巻き上げ優先となります。

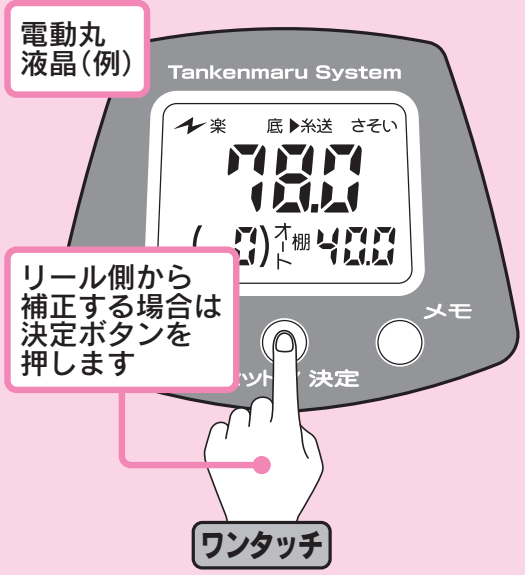
位置補正

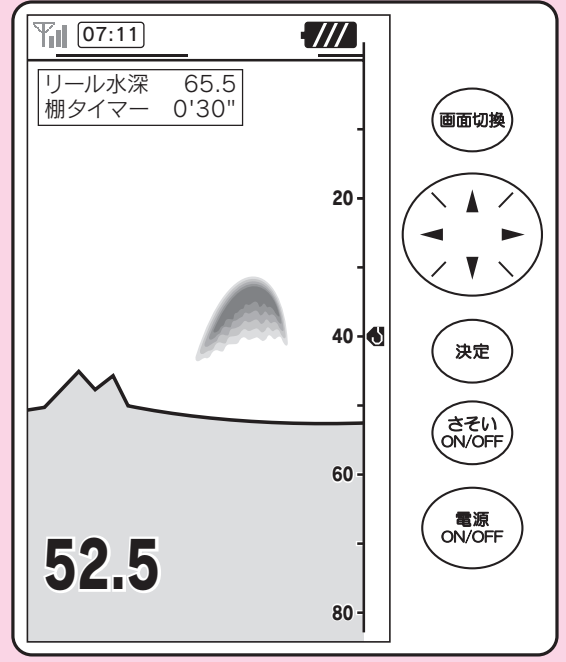
シカケの水深と魚探画面上の位置を簡易的に同調することができます。

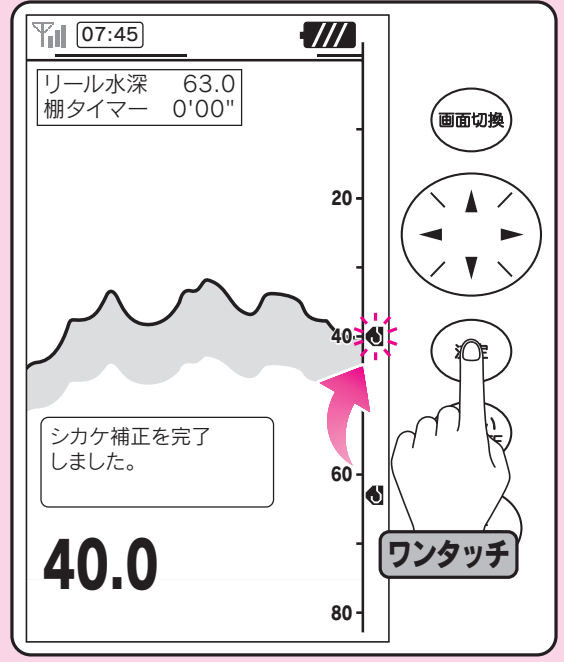
従来のカウンター付きリールが表示する水深は、あくまで巻かれていた糸の放出量であり
潮の流れなどで表示水深とシカケの位置にはズレが生じていました。探見丸システムではワンタッチでズレを補正。
以後、魚探画面上のシカケマークが実際の位置を表示してくれます。

シカケ投入・底取り

1 メニュー画面で［位置補正］→［ON］を選択し、決定ボタンを押してください。

2 画面切換ボタンを押して魚探画面に戻り、シカケを投入し、いったん底まで降ろします。

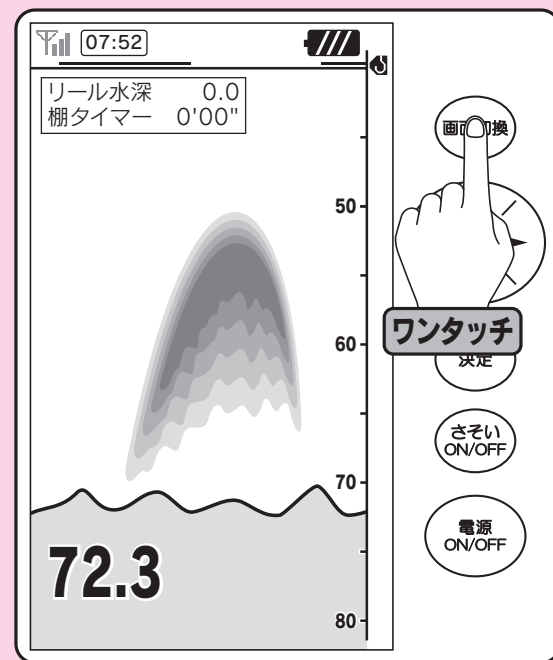
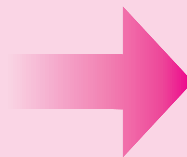
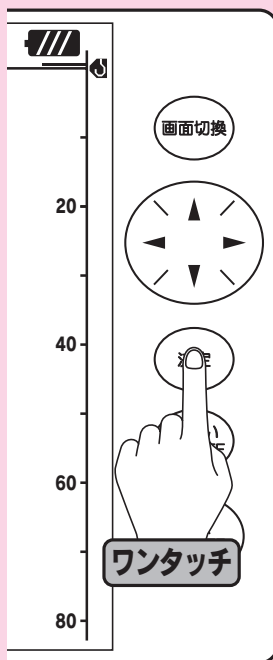
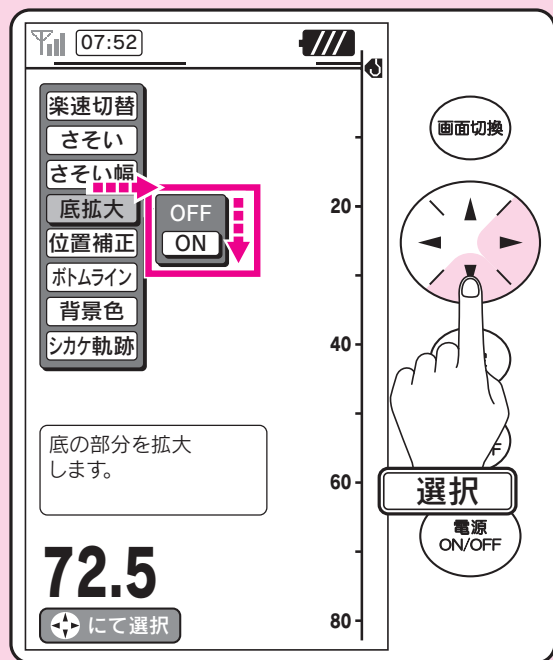
3 底取りできましたら、決定ボタンを押します。
シカケマークが底の位置に表示されます。

リール側からも補正する事ができます。その場合、底取りできましたらリールの決定ボタンを押します。

ご注意!! 3秒以上押さないでください!!
リールの決定ボタンを3秒以上押しますとリールが高切れと判断し、カウンターに誤差が生じます。その際にはお手数ですが再度糸巻学習を行ってください。

4 以後、希望の水深にシカケマークを合わせれば、シカケは実際その位置に来ていることになります。

ご注意!!
「さそい」がONになっている場合は「さそい」を優先し、「さそい」動作がスタートします。「さそい」をOFFにしてからご使用ください。

5 釣場を移動したり、画面とマークが一致しなくなってきた場合には、再度底取りをしてから、決定ボタンで再確定してください。

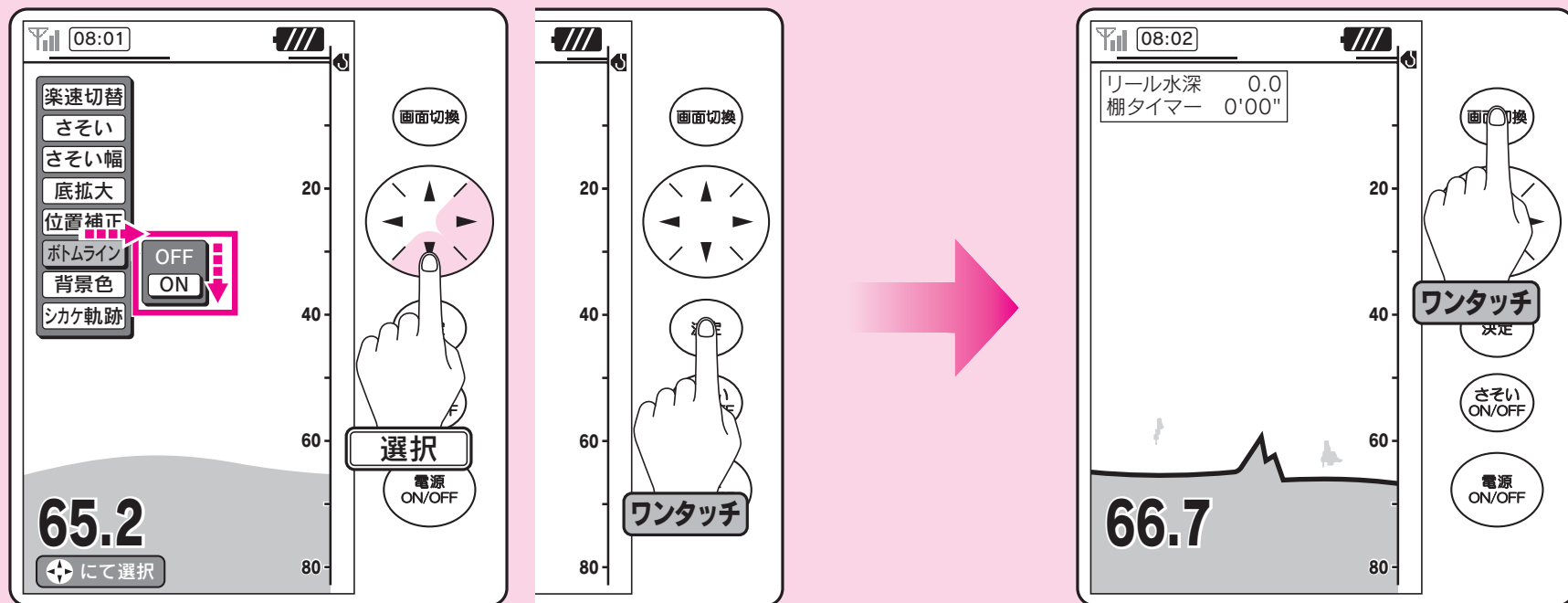
位置補正が正しく行われていない場合、シカケマークが画面から消える事があります。その際にはシカケを再度投入し、底取りを行った上で再度位置補正を行ってください。

底拡大

魚探深度の下半分を縦方向に２倍に拡大します。
海底付近の魚群を把握するのに便利です。

1 メニュー画面で[底拡大]→[ON]を選択し、決定ボタンを押してください。

2 画面切換ボタンで魚探画面に戻ると、魚探深度の下半分を縦方向に2倍に拡大して表示します。

ボトムライン

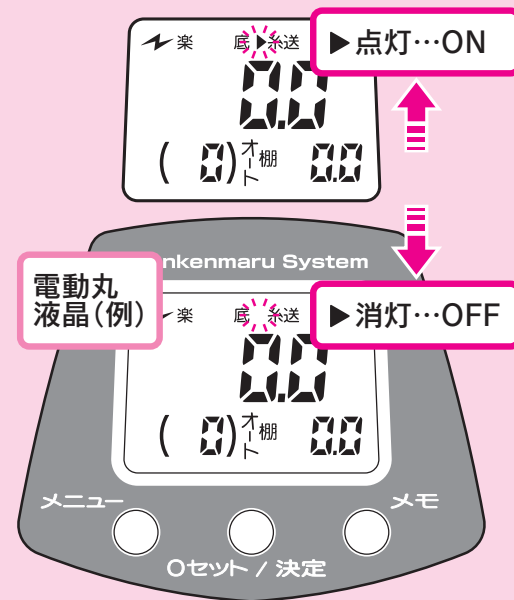
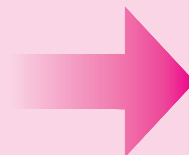
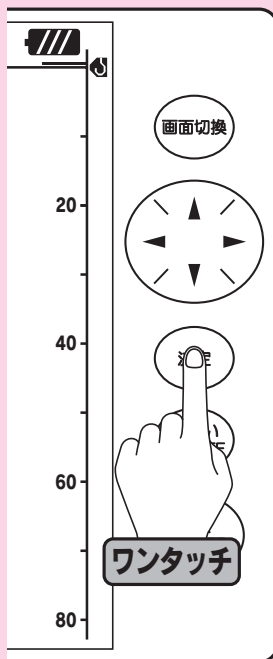
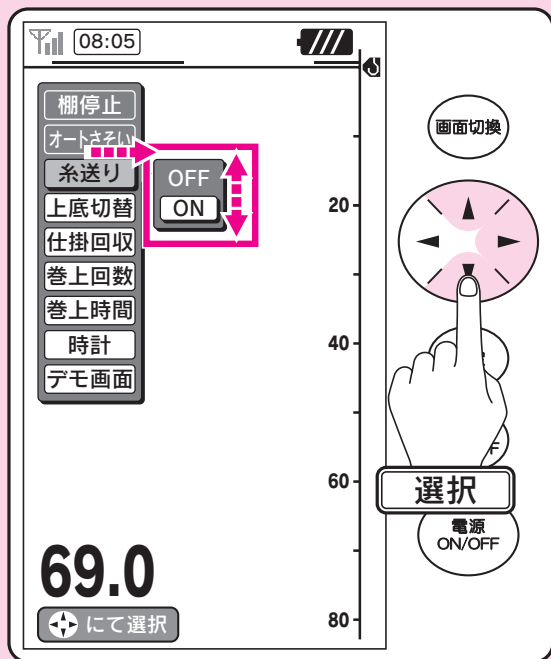
魚探画面の海底部に境界線を表示できます。

1 メニュー画面で[ボトムライン]→[ON]を選択し、決定ボタンを押してください。

2 画面切換ボタンで魚探画面に戻ると、海底部に境界線が表示されます。

根が多数あり複雑な場合、ボトムラインが上、下へと切り替わることがあります。その場合は根が単体ではなく複数あることを意味しています。

糸送り

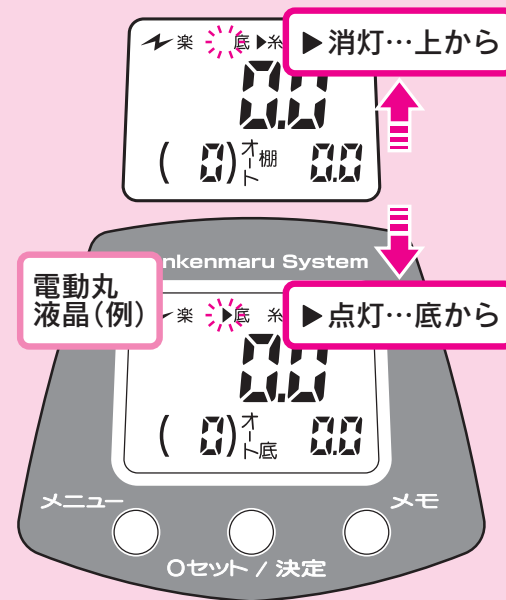
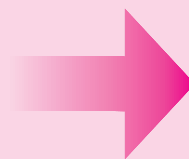
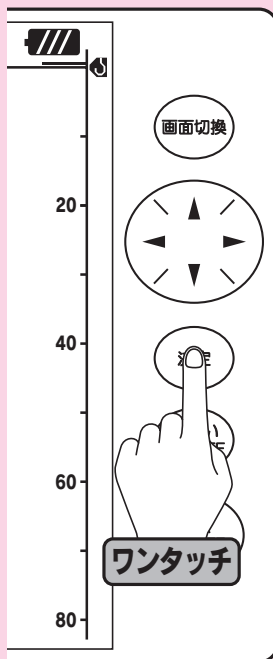
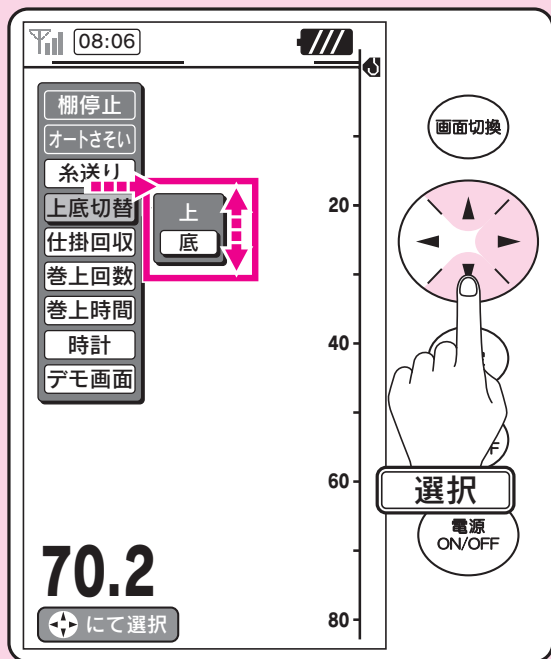
ご使用の電動丸の自動糸送り機能の[ON]・[OFF]が、探見丸から操作できます。

自動糸送り機能の詳細は対応電動丸取扱説明書をご参照ください。

1 メニュー画面で[糸送り]→[ON]または[OFF]を選択し、決定ボタンを押してください。

2 電動丸の設定が変更されます。

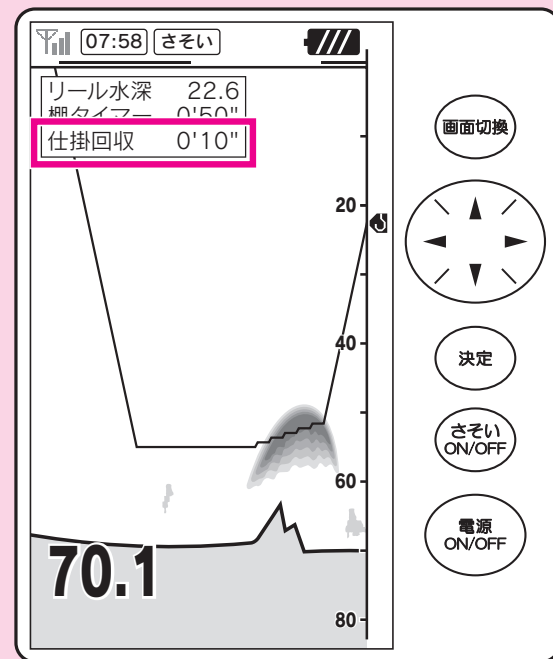
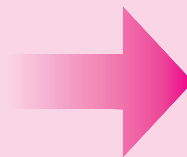
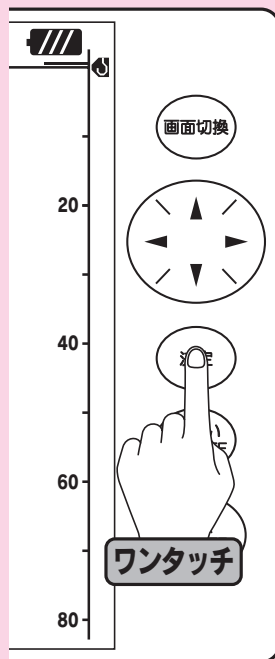
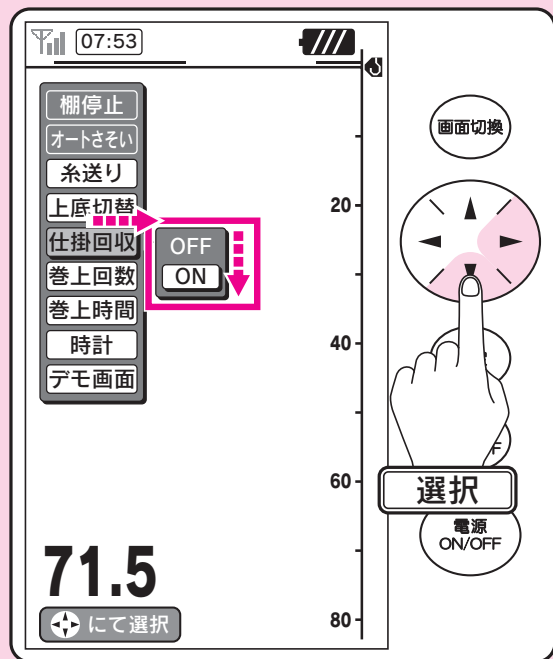
上底切替

ご使用の電動丸水深表示の[上から](水面から)・[底から]を、探見丸から変更できます。

上から・底からモード切り替えの詳細は対応電動丸取扱説明書をご参照ください。

1 メニュー画面で[上底切替]→[上から](水面から)または[底から]を選択し、決定ボタンを押してください。

2 電動丸の水深表示が変更されます。

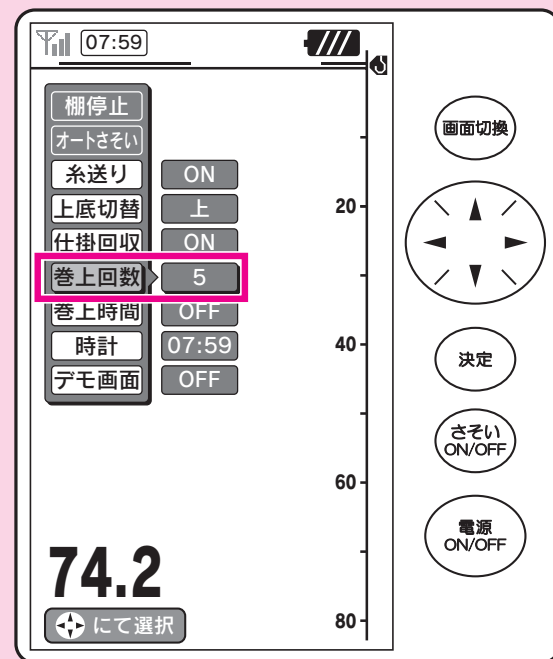
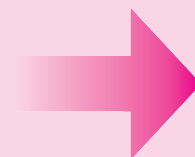
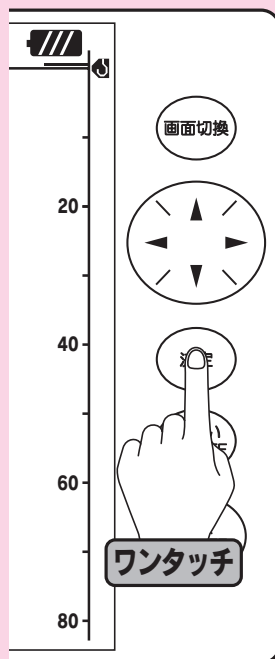
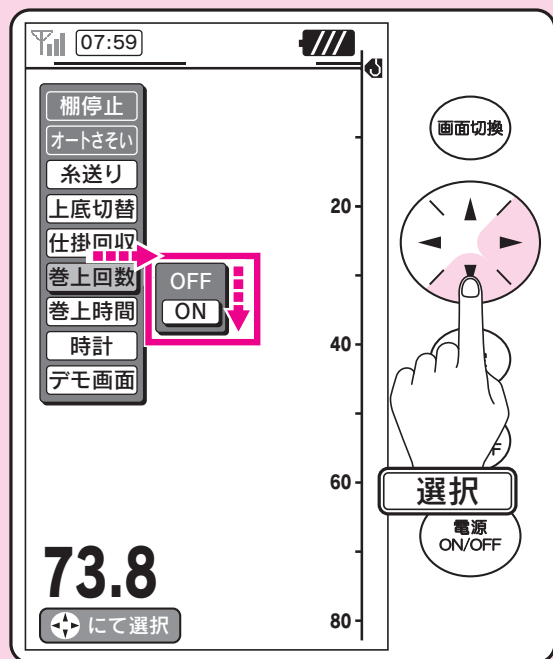
仕掛回収

レバー回収時に、仕掛けが船べりに回収されるまでにかかる残り時間を魚探画面に表示します。

1 メニュー画面で［仕掛回収］→［ON］を選択し、決定ボタンを押してください。

2 レバー回収の際に仕掛けが水中から船べりに回収されるまでの残り時間を魚探画面に表示します。（レバーONにしてから約3秒で表示します。）

巻上回数

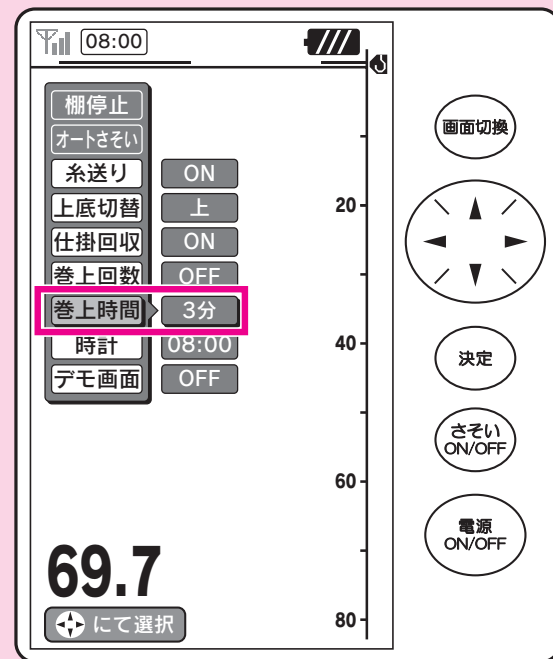
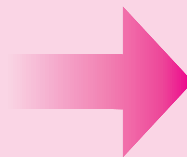
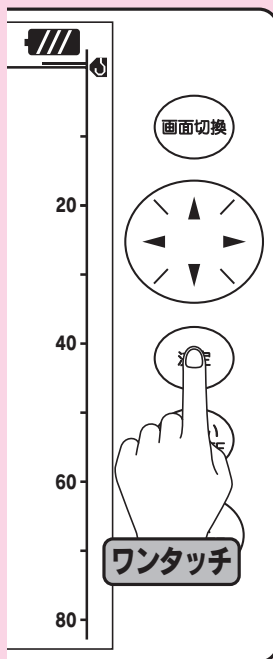
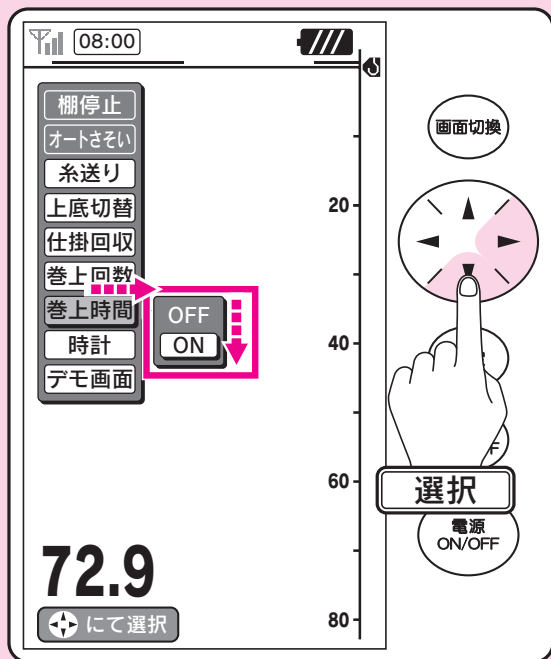
その日一日の釣行で、船べりに仕掛けを巻き上げた手返しの回数が表記されます。

ご自分の手返し数と、釣果の多い人の手返し数を比較され、今後の釣行の参考にしてください。

1 メニュー画面で［巻上回数］→［ON］を選択し、決定ボタンを押してください。

2 その日一日の釣行で船べりに仕掛けを巻き上げた手返しの回数が、メニュー画面の巻上回数欄に表記されます。

巻上時間

その日一日の釣行でモーターが作動していた時間を表記します。

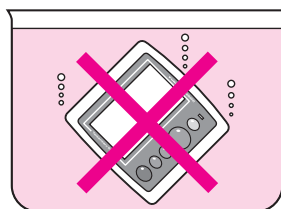
一日の釣行における電動リールの使用頻度の参考にしてください。

1 メニュー画面で［巻上時間］→［ON］を選択し、決定ボタンを押してください。

2 その日一日の釣行でモーターが作動していた時間を、メニュー画面の巻上時間欄に表記します。

お取り扱い上の注意

探見丸は、精密部品で構成されていますので下記注意事項を守ってお取り扱いください。また､釣行後の手入れを十分行ない､末永くご使用ください。

1 探見丸のお手入れ方法

1. 水道水を探見丸にかけながら柔らかい布か、スポンジで汚れを落とします。
※絶対に水中に浸けて洗わないでください。また、液晶面などを硬いものでこすると傷がつきます。
2. 影干ししてよく乾燥させてください。

絶対に水中に浸けて洗わないでください

●探見丸は絶対に分解しないでください。内部には電子部品が入っていますので故障の原因となります。
●高温、高湿の状態で長期間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、上記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。

⚠ 注 意

●探見丸のお手入れは､水道水をかけながら､柔らかい布かスポンジで汚れを落として下さい。
又､絶対に水中に浸けて洗わないで下さい。
くれぐれも水道水以外での洗浄はしないで下さい。
●電源コードを抜いた状態で､電源ソケット部分に水圧を掛けて洗浄しないで下さい｡浸水する可能性があります。

2 ご使用上の注意

1. 防水
探見丸の防水規格は JISC 0920 5級 防噴流形（IEC:IPX5）「いかなる方向からの直接噴流によっても有害な影響を受けない」ですが、水中への浸漬に対する保護機能はありませんのでご注意ください。

2. 落下
落下させますと、故障する場合があります。
落下させないでください。

3. 衝撃
錘や仕掛けを当てると破損する場合があります。
錘や仕掛けなどは当てないようにしてください。

4. 荷重
液晶面に力を加えると、防水機能が低下し、故障の原因となることがあります。液晶面には力を加えないでください。

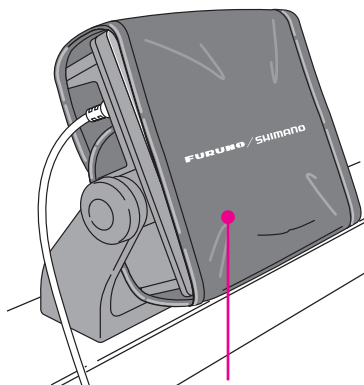
●探見丸システムでは、親機の探知性能以上の水深の場合や、泡切れで親機が海底水深をキャッチできない場合があります。また、大魚群を海底と誤ってしまう場合があります。この時には水深情報を利用する各機能が使えないことになりますのでご注意ください。
●探見丸では魚探映像の感度の変更は行えません。
●探見丸は無線電波を受けているため、金属の箱などに入れると受信できなくなりますのでご注意ください。
探見丸は電波法に基づき開発された製品です。
●探見丸はていねいに扱ってください。移動時には付属のカバーをかぶせて、特に放り投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意下さい。
●探見丸後部及び通信ケーブル/電源コードに衝撃を与えないよう、また、コードを折り曲げないようご注意下さい。特にコードを探見丸と船べりの間にはさまないようご注意下さい。
●LCDの表面は傷が付きやすいので、画面をふくときは十分に注意してください。
●偏光グラスの種類によって液晶画面が見にくくなる場合があります。

（次ページにつづく→）

●使用中に画面表示が消え電源OFFの状態になった場合は、電源ON/OFFボタンを押していただきますと再起動いたします。
これは、電源コードのワニ口クリップに力が加わったり、船電源の極端な電圧変動により、瞬間的に通電が遮断されたことが考えられます。この場合、探見丸の機構はOFFになる設定で、再度電源をONにする必要があるからです。

●ご注意
船長の指示棚は絶対に守りましょう!!
画面上に指示棚以外にも反応が映っているからといって、勝手に大きく棚を変えるのはルール違反です。
船長の指示棚は、長年の経験から導きだした、その場の状況に応じた最適な情報なのです。
自分勝手に大きく棚を変えると、他の釣客とのオマツリや魚を散らす原因になるなど、トラブルの元です。絶対にやめましょう!!

3 探見丸を安全にお使いいただくために

●探見丸の防水規格は JISC 0920 5級 防噴流形(IEC:IPX5)「いかなる方向からの直接噴流によっても有害な影響を受けない」ですが、水中への浸漬に対する保護機能はありませんのでご注意ください。
探見丸の電源コネクターに海水が入らないよう、船縁設置中は電源コードを抜いたままにしないでください。又、船縁に設置後の釣り場移動時/釣行の移動時には、付属のカバーをかぶせてください。過度の波浪/突起物等から本機を守ります。(右図)

過度の波浪/突起物などから探見丸を守るため、付属のカバーをかぶせてください。

安全上のご注意 ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 警 告

	●カバーケースは絶対開けないこと。 感電の原因になります。 故障の場合は、お買い上げ先へ連絡してください。
	●分解·改造等は絶対しないこと。 火災、感電、ケガの原因になります。
	●発煙、発火のときはただちに電源ケーブルを外すこと。 火災、感電の原因になります。
	●電源/通信ケーブルは規定のものを使うこと。 規定外のものを使った場合、重大な事故や火災を引き起こす原因になります。
	●液晶部のレンズ内側に水滴の付着や曇りが見られた場合は、使用をやめて修理に出してください。 **防水機構が壊れています。**

警告ラベル
探見丸には右図のような警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

⚠ 警 告 ⚠
水没させないで下さい。
故障の原因となります。
液晶パネルについて
液晶パネルは非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上が有効画素ですが、0.01%以下の画素欠けや常時点灯する画素が存在します。これは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

ご注意／セーフティ機能／仕様

4 ご注意

●**注意１：**親機がシフトされている場合、ボトムラインは自動的にＯＦＦとなります。又、親機の設定及び使用状況によりボトムラインが海底をトレースできない場合がありますが、本機の故障では御座いません。魚群探知機特有の現象です。

●**注意２：**電池の種類によっては多少使用可能時間が前後します。

5 セーフティ機能

次の場合、補助説明ウィンドウに図のように表示されます。

●親機からの信号がない場合

→お乗りになられている船名の選択をされたかどうか、もう一度ご確認頂き、通信のできる位置に子機を移動、向きを変えるなどしてください。

親機からの信号がきていません。

●電圧が高すぎる場合

DC20V以上の電圧がかかると下図のように表示されます。24V以上になりますとセーフティ機能が働き、強制的に液晶をOFFにします。

電圧が高すぎます。
電源を確認してください。

→12Vから14.8Vの範囲のバッテリーをご使用ください。

●リールのブレーカーが作動している場合(電動丸接続時のみ)

リールのモーターに過負荷がかかり、ブレーカーが働いている場合に表示されます。

ブレーカー作動中です。

→ご愛用の電動丸取扱説明書をご確認ください。

6 仕様

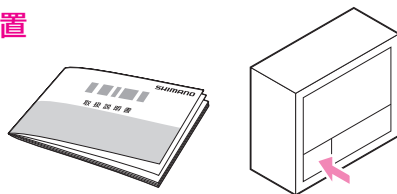
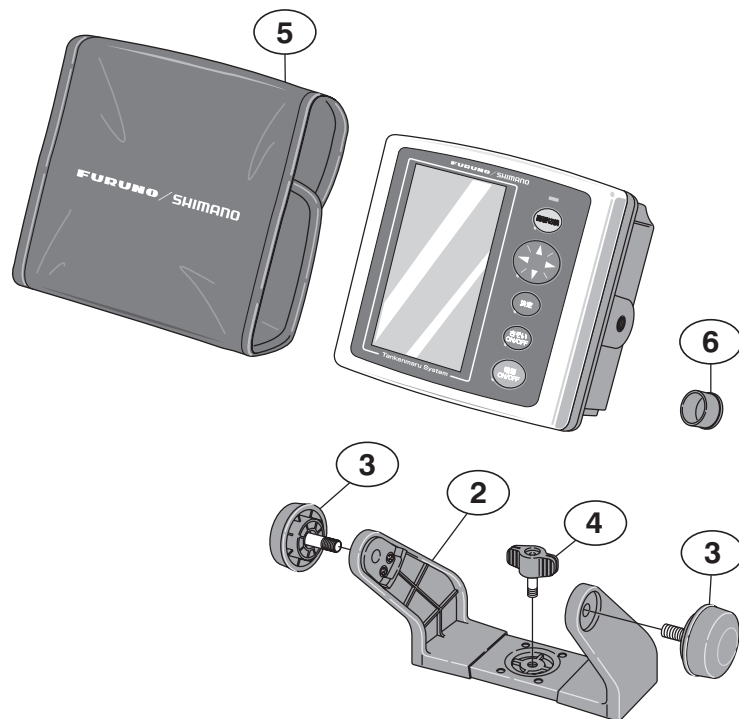
品番	**探見丸CV**		
製品コード	5RK03A000	**商品コード**	02213
自重	約423g（本体のみ）		
表示画面	4.3型カラーTFT		
通信方式	Zigbee（IEEE802.15.4規格）		
受信周波数	2.4GHz	**送信出力**	1mW
通信速度	250Kbps	**消費電力**	3W
電源タイプ	**電源コード使用時（オプション）**	DC12V～14.8V/0.3A	
	乾電池	単３型×６本 ※ニッケル水素の充電池にも対応しています。	
	乾電池使用時の電池寿命 （20℃時で昼間）	**マンガン：**約６時間 **アルカリ：**約１０時間 **オキシライド（推奨）：** 約１２時間以上	
使用条件	**使用温度範囲**	－10℃～50℃	
	使用湿度範囲	93%以下（＋40℃）	
	防水性能	1m防水	
標準付属品	ハンガー×1、ハンガーノブ×2、蝶ネジ×1、ソフトカバー×1、コネクタ用キャップ×1、保証書、取扱説明書		

7 製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

探見丸のメカニズムの説明には、書面で表しにくいことがあります。手紙での問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

- 修理に出される時は保証書と製品をお持ちになり、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。その際には必ず、修理箇所、不具合内容を具体的に（例／電源が入らない）お知らせください。また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄りの営業所へお問い合わせください。修理品は部品代のほか工賃をいただきますのでご了承ください。商品の故障等によって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。
- 紛失部品や破損部品のお取り寄せは分解図をご覧いただき、製品名・商品コードもしくは製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、ご注文ください。内部の部品に関しましては、複雑ですので本体ごと修理に出して下さい。
（例／製品名：探見丸CV　商品コード：02213　製品コード：5RK03A000　部品番号：2　部品名：ハンガー）
- 弊社では探見丸の補修用性能部品の保有期間を、製造中止後６年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後６年以内でも供給できない可能性がございます。

●商品コード／製品コードの位置

・取扱説明書
・パッケージ側面部

■分解図

■パーツリスト

番号	部品名	番号	部品名
2	ハンガー	**5**	ソフトカバー
3	ハンガーノブ	**6**	コネクタ用キャップ
4	蝶ネジ		

※部品内容について予告なく変更する場合があります。

サービスネット

株式会社シマノ全国サービスネット

株式会社シマノ　北海道営業所
〒001-0925 札幌市北区新川5条1-3-50　TEL.(011)716-3301

株式会社シマノ　仙台営業所
〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町2-17-10　TEL.(022)232-4775

株式会社シマノ　埼玉営業所
〒362-0043 埼玉県上尾市西宮下3-194-1　TEL.(048)772-6662

株式会社シマノ　東京営業所
〒143-0013 東京都大田区大森南1-17-17　TEL.(03)3744-5656

株式会社シマノ　静岡営業所
〒410-0807 静岡県沼津市錦町674　TEL.(055)962-3983

株式会社シマノ　名古屋営業所
〒454-0012 名古屋市中川区尾頭橋2-6-21　TEL.(052)331-8666

株式会社シマノ　大阪営業所
〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3-77　TEL.(072)223-3920

株式会社シマノ　中国営業所
〒700-0941 岡山市青江6-6-18　TEL.(086)264-6100

株式会社シマノ　四国営業所
〒768-0014 香川県観音寺市流岡町1496-1　TEL.(0875)23-2220

株式会社シマノ　九州営業所
〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜4-6　TEL.(0942)83-1515

シマノ臨海株式会社　釣具サービス課
〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町1-5-15　TEL.(072)243-2851

●探見丸システム、商品の性能、スペック、カタログ、イベントや商品の修理、パーツなどアフターサービスに関するお問い合わせ
フリーダイヤル 0120-861130（ハローイイサオ）フリーダイヤルをご利用できない方は 072-243-8538（有料）をご利用下さい。 受付時間：AM9:00～12:00・PM1:00～5:00（土・日・祝日除く）

■シマノホームページ　アドレスは http://www.shimano.com です。
新製品情報・気象情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、シマノならではのオリジナル情報を発信しています。
また、カタログのお申し込みも受け付けています。

■シマノi-mode情報　アドレスは http://fishing.shimano.co.jp/i/ です。
商品情報・イベント情報・釣りに役立つ情報等をいち早くお届けします。

古野電気株式会社　〒662-8580 兵庫県西宮市芦原町9番52号　TEL.(0798)63-1092・1097

■フルノホームページ　アドレスは http://www.furuno.co.jp です。

株式会社シマノ釣具事業部　本　社：〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

Printed in Philippines　035